

# 小児がん拠点病院 現況報告書

令和6年9月1日時点について記載

病院名	京都府立医科大学附属病院											
よみがな	きょうとふりついかだいがくぶぞくびょういん											
郵便番号	〒	602-8566										
住所	京都府	京都市上京区河原町通広小路上ル梶井町465										
よみがな	きょうとしかみぎょうくかわらまちどおりひろこうじあがるかじいちょう											
電話(代表)	075-251-5111											
FAX(代表)	075-251-7093											
e-mail(代表)												
HPアドレス	<a href="https://www.h.kpu-m.ac.jp/">https://www.h.kpu-m.ac.jp/</a>											
診療科	開設診療科数	34										
診療科名(具体的に記載)	内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、呼吸器外科、アレルギー科、リウマチ科、精神科・心療内科、脳神経内科、外科、心臓血管外科、小児外科、形成外科、脳神経外科、整形外科、産婦人科、小児科、眼科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、歯科、内分泌・糖尿病・代謝内科、病理診断科、救急医療科、消化器外科、小児心臓血管外科、内分泌・乳腺外科、腎臓内科、移植外科、血液内科											
外来診療受付時間	曜日	月～金	時間	8	時	45	分	～	11	時	00	分
	曜日		時間		時		分	～		時		分
	曜日		時間		時		分	～		時		分
	曜日		時間		時		分	～		時		分
	曜日		時間		時		分	～		時		分
	曜日		時間		時		分	～		時		分
休診日	土日祝 年末年始											
初診時の予約	不要		(すべての診療科で必要／一部の診療科で必要／不要)									
初診時の紹介状の要否	すべての診療科で必要		(すべての診療科で必要／一部の診療科で必要／不要)									
病床数	総病床数	721	床									

診療実績（令和5年1月1日～12月31日）

施設全体の入院患者延べ数（18歳以下）※1	2,173	人
施設全体の入院患者実数（18歳以下）※1	1,528	人
小児がん入院患者延べ数 ※2	312	人
小児がん入院患者実数 ※2	121	人
小児がん入院患者在院延べ日数 ※3	5,935	日
外来小児がん患者数 ※4	2,746	人
緩和ケアチームが新規で診療を実施した小児がん患者数 ※5	8	人
セカンドオピニオンの対応を行った小児がん患者数 ※6	12	人
他施設から紹介され受け入れた小児がん患者数 ※7	43	人
小児がん患者の紹介を受けた医療機関数 ※8	27	機関
小児がん患者の他施設への紹介患者数 ※9	124	人
小児がん患者を紹介した医療機関数 ※8	49	機関

※1 当該医療機関で入院加療を行う入院時18歳以下の患者の延べ数と実数をそれぞれ計上する。令和5年1月1日以降に入院した患者を数える。  
入院した患者がその日のうちに退院あるいは死亡した場合も1人と計上する。  
入院患者延べ数については、当該年に同一患者が2回入院した場合は2人とする。（入院日数によらず、1回の入院あたり1人を計上する。）

※2 当該医療機関で入院加療を行う入院時18歳以下の患者のうち、小児がん患者（「診断時18歳以下のがん患者」と定義する）の延べ数と実数をそれぞれ計上する。令和5年1月1日以降にがんの診療を目的として入院した患者を数える。  
骨折での入院のような他疾患の治療目的での入院は除外するが、フォローアップ検査等での入院は含む。  
入院した患者がその日のうちに退院あるいは死亡した場合も1人と計上する。  
入院患者延べ数については、当該年に同一患者が2回入院した場合は2人とする。（入院日数によらず、1回の入院あたり1人を計上する。）

※3 当該医療機関で入院加療を行う入院時18歳以下の患者のうち、小児がん患者（「診断時18歳以下のがん患者」と定義する）の在院延べ日数を計上する。  
前年から入院している症例は、1月1日を起算日とする。翌年まで入院している場合は12月31日を退院日としてカウントする。  
当該期間内のがんの診療目的での入院を数える。（他疾患の治療目的(例:骨折にて入院)での入院は除外、フォローアップ検査等は含む）  
（入院した患者がその日のうちに退院あるいは死亡した場合も1日と計上する。）  
（入院時点で診断がなされていない場合は、がんの診断日を入院初日とする。）

※4 診断時18歳以下を対象とする。初診料もしくは再診料を算定した小児がん患者の延べ数を記入する。  
同一患者が2つ以上の診療科を受診した場合は、それぞれの患者として計上する。

※5 診断時18歳以下を対象とし、総数(実数)を計上する。終末期の患者だけではなく、緩和ケアチームが検討した結果、診察・薬剤・リハビリなど診療行為の対象となった患者を含むが、カンファレンスのみを行い、実際の診療行為が行われていない患者は含まない。

※6 診断時18歳以下を対象とし、延べ数を計上する。なお、当該年に2回セカンドオピニオンを行った患者は、2人と計上する。

※7 診断時18歳以下を対象とし、延べ数を計上する。なお、フォローアップ目的の紹介を含む。

※8 重複のない実数を計上する。

※9 診断時18歳以下を対象とし、延べ数を計上する。なお、紹介時には18歳を超えていても構わないが、がんに関連しない疾患での紹介(齲歯に対する歯科診療など)は含めない。転院目的での紹介は含むが、同時期に複数病院へ同一内容で紹介した場合は1人と計上する(同時期に異なる内容で紹介または異なる時期に同一内容で紹介の場合は別で計上する)。

小児がんに関する専門外来の名称

腫瘍外来、血液外来、長期フォローアップ外来

職員数

総数(事務職員を含む)

2,280 人		
人数	うち常勤(※)	
医師	729	256
歯科医師	18	5
薬剤師	66	61
保健師	0	0
看護師	888	819
准看護師	1	0
理学療法士	18	18
作業療法士	7	7
視能訓練士	10	5
言語聴覚士	6	2
義肢装具士	0	0
診療放射線技師	59	56
臨床検査技師	73	54
衛生検査技師	0	0
臨床工学技士	23	23
管理栄養士	17	11
栄養士	5	0
社会福祉士	3	3
精神保健福祉士	2	2
公認心理師	5	2
介護福祉士	0	0
保育士	6	1
その他の職種	344	61

※常勤とは当該医療機関で定めている1週間の就業時間すべてを勤務している者をいい、正規・非正規は問わないものとする。ただし、当該医療機関で定めている就業時間が32時間に満たない場合は、常勤とはみなさない。

一般社団法人日本小児血液・がん学会 小児血液・がん専門医
一般社団法人日本小児血液・がん学会 小児がん認定外科医
一般社団法人日本小児外科学会 小児外科専門医
公益社団法人日本小児科学会 小児科専門医
一般社団法人日本小児神経学会 小児神経専門医
一般社団法人日本脳神経外科学会 脳神経外科専門
一般社団法人日本病理学会 病理専門医
公益社団法人日本臨床細胞学会 細胞診専門医
一般社団法人日本血液学会 血液専門医
一般社団法人日本造血・免疫細胞療法学会 造血細胞移植認定医
公益社団法人日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医
一般社団法人がん治療認定医機構 がん治療認定医
公益社団法人日本放射線腫瘍学会・公益社団法人日本医学放射線学会 共同 放射線治療専門医
公益社団法人日本医学放射線学会 放射線診断専門医
特定非営利活動法人日本緩和医療学会 緩和医療専門医
特定非営利活動法人日本緩和医療学会 緩和医療認定医
一般社団法人日本内分泌学会 内分泌代謝科(小児科)専門医
特定非営利活動法人日本小児循環器学会 小児循環器専門医
一般社団法人日本小児麻酔学会 認定医
公益社団法人日本看護協会 がん看護専門看護師
公益社団法人日本看護協会 小児看護専門看護師
公益社団法人日本看護協会 地域看護専門看護師
公益社団法人日本看護協会 がん化学療法看護認定看護師 または がん薬物療法認定看護師
公益社団法人日本看護協会 緩和ケア認定看護師 または がん性疼痛看護認定看護師
公益社団法人日本看護協会 がん放射線療法看護認定看護師
公益社団法人日本看護協会 摂食・嚥下障害看護認定看護師
公益社団法人日本看護協会 皮膚・排泄ケア認定看護師
特定非営利活動法人日本小児がん看護学会 小児がん看護師
一般社団法人日本輸血・細胞治療学会 臨床輸血看護師
一般社団法人日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師
一般社団法人日本医療薬学会 がん専門薬剤師
公益社団法人日本臨床細胞学会 細胞検査士
一般財団法人 医学物理士認定機構 医学物理士
一般社団法人日本放射線治療専門放射線技師認定機構 放射線治療専門放射線技師
公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会 臨床心理士

人数	うち常勤(※)
7	5
2	2
10	5
51	23
10	6
12	11
8	4
11	7
18	12
8	5
11	9
56	51
10	8
22	17
4	4
0	0
2	2
4	3
9	7
3	3
2	2
0	0
1	1
2	2
2	2
2	2
3	3
0	0
0	0
0	0
2	2
6	4
6	5
5	5
6	4

※常勤とは当該医療機関で定めている1週間の就業時間すべてを勤務している者をいい、正規・非正規は問わないものとする。ただし、当該医療機関で定めている就業時間が32時間に満たない場合は、常勤とはみなさない。

一般社団法人 日本病態栄養学会/  
 公益社団法人 日本栄養士会 がん病態栄養専門管理栄養士  
 一般社団法人日本人類遺伝学会  
 /一般社団法人日本遺伝カウンセリング学会 認定遺伝カウンセラー  
 特定非営利活動法人子ども療養支援協会 子ども療養支援士  
 一般社団法人日本チャイルド・ライフ・スペシャリスト 認定チャイルド・ライフ・スペシャリスト  
 特定非営利活動法人日本ホスピタル・プレイ協会 ホスピタル・プレイ・スペシャリスト  
 (日本でカリキュラム受講・資格を取得した者)  
 ホスピタル・プレイ・スペシャリスト  
 (英国でカリキュラム受講・資格取得をした者、health play specialistを含む)

3	2
1	1
0	0
0	0
1	1
0	0

1 診療体制		A	必須 原則 望ましい 参考	はい:記載内容を満たしている いいえ:記載内容を満たしていない
<b>(1) 診療機能</b>				
<b>① 集学的治療の提供体制および標準的治療等の提供</b>				
ア	小児がんについて、手術療法、放射線療法および薬物療法を効果的に組み合わせた集学的治療および緩和ケアを提供する体制を有するとともに、各学会の診療ガイドラインに準ずる標準的治療（以下「標準的治療」という。）等小児がん患者の状態に応じた適切な治療を提供している。 専門とするがんについて別紙1に記載すること。	A	はい	(はい/いいえ)
イ	小児がん患者の病態に応じたより適切ながん医療を提供できるよう、以下のカンファレンスをそれぞれ必要に応じて定期的開催している。また、検討した内容については、診療録に記録の上、関係者間で共有している。 i 個別もしくは少数の診療科の医師を主体とした日常的なカンファレンス ii 個別もしくは少数の診療科の医師に加え、看護師、薬剤師、必要に応じて公認心理師や緩和ケアチームを代表する者等を加えた、症例への対応方針を検討するカンファレンス iii 手術、放射線診断、放射線治療、薬物療法、病理診断及び緩和ケア等に携わる専門的な知識及び技能を有する医師とその他の専門に異なる医師等による、骨転移・原発不明がん・希少がんなどに関して臓器横断的に小児がん患者の診断及び治療方針等を意見交換・共有・検討・確認等するためのカンファレンス iv 臨床倫理的、社会的な問題を解決するための、具体的な事例に則した、患者支援の充実や多職種間の連携強化を目的とした院内全体の多職種によるカンファレンス iv のカンファレンスの開催回数（令和5年1月1日～12月31日）	A	はい	(はい/いいえ)
		A	はい	(はい/いいえ)
		A	はい	(はい/いいえ)
		A	はい	(はい/いいえ)
		A	はい	(はい/いいえ)
		-	50	回
ウ	院内の他診療科や、小児がん連携病院、がん診療連携拠点病院等、地域の医療機関と協力し、小児がん患者に対して、移行期医療や成人後の晩期合併症対応等も含めた長期フォローアップ体制を構築している。 自ら病歴を確保・保存することや疾病理解、健康管理などに関する患者教育、患者啓発に努めている。 長期フォローアップ外来（小児がん経験者の健康管理、晩期合併症の予防、疾病の早期発見・早期治療のための外来）を開設している。	A	はい	(はい/いいえ)
		A	はい	(はい/いいえ)
		-	はい	(はい/いいえ)
エ	AYA世代にあるがん患者について、がん診療連携拠点病院等への紹介も含めた適切な医療を提供できる体制を構築している。	A	はい	(はい/いいえ)
オ	急変時等の緊急時に小児がん患者が入院できる体制を確保している。	A	はい	(はい/いいえ)
カ	地域のがん・生殖医療ネットワークに加入し、「小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業」へ参画している。 対象となりうる患者および家族には必ずがん治療開始前に適切な情報提供を行い、患者等の希望も踏まえた妊孕性（注5）温存療法及びがん治療後の生殖補助医療に関する情報提供・意思決定支援を行う体制を整備している。 自施設において、がん・生殖医療に関する意思決定支援を行うことができる診療従事者の配置・育成に努めている。 がんの治療に際する妊孕性温存治療を自施設で実施できる。 生殖機能の温存の支援を行った患者数やその体制について別紙2に記載すること。	A	はい	(はい/いいえ)
		-	はい	(はい/いいえ)
		-	別紙2	
キ	保険適用外の免疫療法等について、治験、先進医療、臨床研究法（平成29年法律第16号）で定める特定臨床研究または再生医療等の安全性の確保等に関する法律（平成25年法律第85号）に基づき提供される再生医療等の枠組み以外の形では、実施・推奨していない。	A	はい	(はい/いいえ)
<b>② 薬物療法の提供体制</b>				
	薬物療法のレジメンを審査し、組織的に管理する委員会を設置している。	A	はい	(はい/いいえ)
<b>③ 緩和ケアの提供体制</b>				
ア	小児がん診療に携わる全ての診療従事者により、全ての小児がん患者に対し適切な緩和ケアが提供される体制を整備している。 上記を支援するために、組織上明確に位置付けられた緩和ケアチームを整備している。 自施設で対応できない場合には地域のがん診療連携拠点病院等との連携体制を整備している。 (30.31がともに"はい"の場合には、"いいえ"を選択してください) 緩和ケアチームの組織・体制について別紙3に記載すること。	A	はい	(はい/いいえ)
		A	はい	(はい/いいえ)
		-	いいえ	(はい/いいえ)
		-	別紙3	
イ	外来において専門的な小児の緩和ケアを提供できる体制を整備している。 緩和ケア外来について別紙4に記載すること。	B	はい	(はい/いいえ)
		-	別紙4	
ウ	緩和ケアチーム並びに必要に応じて主治医および看護師等が参加する症状緩和に関するカンファレンスを定期的開催している。 緩和ケアチームによるカンファレンスを開催した回数（令和5年1月1日～12月31日）	A	はい	(はい/いいえ)
		-	51	回
エ	院内の見やすい場所に緩和ケアチームによる診察が受けられる旨の掲示をするなど、小児がん患者およびその家族等に対し必要な情報提供を行っている。 情報提供の手段について簡潔に記載すること（例：医療機関のwebサイトに掲載）	A	はい	(はい/いいえ)
		-	院内掲示、HPに記載	
オ	小児がん連携病院やかかりつけ医等の協力・連携を得て、主治医および看護師が緩和ケアチームと共に、退院後の居宅における緩和ケアに関する療養上必要な説明および指導を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)
カ	小児の緩和ケアに関する要請および相談に関する受付窓口を設けるなど、小児がん連携病院や地域の医療機関および在宅療養支援診療所等との連携協力体制を整備している。 緩和ケア病棟について別紙5に記載すること。	A	はい	(はい/いいえ)
		-	別紙5	
<b>④ 地域連携の推進体制</b>				
ア	小児がん連携病院や地域の医療機関から紹介された小児がん患者の受け入れを行っている。 また、小児がん患者の状態に応じ、小児がん連携病院や地域の医療機関等へ小児がん患者の紹介を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)
		A	はい	(はい/いいえ)
イ	小児がんの病理診断又は画像診断に関する依頼や手術療法、放射線療法又は薬物療法に関する相談など、小児がん連携病院や地域の医療機関等の医師と相互に診断及び治療に関する連携協力体制を整備している。 なお、がんゲノム医療中核拠点病院等と連携して、がん遺伝子パネル検査等に試料を提出するための体制も整備している。	A	はい	(はい/いいえ)
		A	はい	(はい/いいえ)
<b>⑤ セカンドオピニオンの提示体制</b>				
ア	医師からの診断結果や病状の説明時及び治療方針の決定時等において、すべての小児がん患者とその家族に対して、他施設でセカンドオピニオンを受けられることについて説明している。 その際、心理的な障壁を取り除くことができるよう留意している。	A	はい	(はい/いいえ)
		A	はい	(はい/いいえ)
イ	小児がんについて、手術療法、放射線療法又は薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医師によるセカンドオピニオンを提示する体制を有している。 また、小児がん連携病院がセカンドオピニオンを提示する体制を構築できるよう適切な指導を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)
ウ	セカンドオピニオンを提示する場合に、必要に応じてオンラインでの相談を受け付けることができる体制を確保している。 セカンドオピニオンの提示体制、問い合わせ窓口について別紙6に記載すること。	B	はい	(はい/いいえ)
		-	別紙6	

(2) 診療従事者

用語の定義:

専任: 当該診療の実施担当で、その他の診療を兼任していても差し支えないが、就業時間の少なくとも5割以上、当該診療に従事しているもの。

専従: 就業時間の少なくとも8割以上、当該診療に専ら従事しているもの。

※専任の人数には、専従も含めて記載すること。

① 専門的な知識および技能を有する医師の配置

Table with columns for category (A, B), count, and person count. Includes rows for pediatric oncology, surgery, radiation therapy, and palliative care.

② 専門的な知識及び技能を有する医師以外の診療従事者の配置

Table with columns for category (A, B), count, and person count. Includes rows for radiation therapists, pharmacists, nurses, and social workers.

(3) その他の環境整備等

Table with columns for question number, response (A/B), and answer (はい/いいえ).

(4) 診療実績

Table with columns for question number, response (A/B), and answer (はい/いいえ). Includes rows for new cases of pediatric cancer and solid tumors.

2 人材育成等			
(1) 自施設において、1に掲げる診療体制その他要件に関連する取組のために必要な人材の確保や育成に積極的に取り組んでいる。	A	はい	(はい/いいえ)
特に、診療の質を高めるために必要な学会が認定する資格等の取得についても積極的に支援している。	A	はい	(はい/いいえ)
学会・教育・研修活動のための予算が計上されている。	-	はい	(はい/いいえ)
論文発表、学会発表等を病院業績集等で報告している。	-	はい	(はい/いいえ)
(2) 拠点病院の長は、当該拠点病院においてがん医療に携わる専門的な知識及び技能を有する医師等の専門性及び活動実績等を定期的に評価し、当該医師等がその専門性を十分に発揮できる体制を整備している。	A	はい	(はい/いいえ)
(3) 自施設の診療従事者等を中心に、小児がん対策の目的や意義、患者やその家族が利用できる制度や関係機関との連携体制、自施設で提供している診療・患者支援の体制について学ぶ機会を年1回以上確保している。	A	はい	(はい/いいえ)
自施設のがん診療に携わる全ての診療従事者が受講している。	B	はい	(はい/いいえ)
(4) 小児がん連携病院や地域の医療機関等の多職種診療従事者も参加する小児がんの診療、相談支援、がん登録及び臨床試験等に関する研修会等を毎年定期的に開催し、人材育成等に努めている。	A	はい	(はい/いいえ)
小児がんに関する研修等の回数および研修プログラムの状況について別紙8に記載すること。		別紙8	
3 相談支援及び情報の収集提供			
(1) がん相談支援センター			
①から⑤に掲げる相談支援を行う機能を有する部門(以下「がん相談支援センター」という。なお、病院固有の名称との併記を認めた上で、「がん相談支援センター」と表記すること。)を設置している。	A	はい	(はい/いいえ)
院内の見やすい場所にごん相談支援センターによる相談支援を受けられる旨の掲示をするなど、がん相談支援センターについて積極的に広報している。	A	はい	(はい/いいえ)
小児がん患者及びAYA世代にあるがん患者に対しては、小児・AYA世代のがんに関する一般的な情報提供、療育・発達への支援等に加えて、ライフステージに応じた長期的な視点から、他の医療機関や行政機関、教育機関等と連携し、就学・就労・生殖医療等への相談対応や患者活動への支援等の幅広い相談支援が必要となることに十分に留意している。	A	はい	(はい/いいえ)
患者のみならず、患者のきょうだいを含めその家族に対する支援も行っている。	A	はい	(はい/いいえ)
広報の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	医療機関のwebサイトに掲載	
がん相談支援センターの体制について別紙9に記載すること。		別紙9	
がん相談支援センターの問い合わせ窓口について別紙10に記載すること。		別紙10	
① 国立研究開発法人国立がん研究センター(以下「国立がん研究センター」という。))による「がん相談支援センター相談員基礎研修」(1)(2)を受講後、国立成育医療研究センターが実施する「小児がん相談員専門研修」を修了した専任の相談支援に携わる者を1人以上配置している。	A	はい	(はい/いいえ)
国立がん研究センターによる「がん相談支援センター相談員基礎研修」(1)(2)を受講後、国立成育医療研究センターが実施する「小児がん相談員専門研修」を修了した者の人数	-	0	人
相談支援に携わる者は、対応の質の向上のために、「小児がん拠点病院相談員継続研修」等により定期的な知識の更新に努めている。	A	はい	(はい/いいえ)
小児がんに関する相談支援に携わる、看護師等の診療従事者の人数	-	1	人
小児がんに関する相談支援に携わる、社会福祉士の資格を有する者の人数	-	0	人
小児がんに関する相談支援に携わる、精神保健福祉士の資格を有する者の人数	-	0	人
② 患者やその家族に対し、必要に応じて院内の診療従事者が対応できるように、①に規定する者と医療従事者が協働できる体制を整備している。	A	はい	(はい/いいえ)
③ 院内及び地域の診療従事者の協力を得て、院内内外の小児がん患者・AYA世代にある患者及びその家族並びに地域の住民及び医療機関等からの相談等に対応する体制を整備している。	A	はい	(はい/いいえ)
相談支援に関し十分な経験を有する小児がん患者団体等との連携協力体制の構築に積極的に取り組んでいる。	B	はい	(はい/いいえ)
④ 小児がん患者及びその家族が心の悩みや体験等を語り合うための患者サロン等の場を設けている。	A	はい	(はい/いいえ)
その際には、十分な経験を持つ患者団体等と連携して実施するよう努めている。	A	はい	(はい/いいえ)
オンライン環境でも開催できる体制を整備している。	B	はい	(はい/いいえ)
小児がん患者およびその家族が語り合うための場の一覧を別紙11に記載すること。		別紙11	
小児がん患者およびその家族を対象とした小児がんの医療・支援に関する勉強会等を開催した回数(令和5年1月1日～12月31日)	-	2	回
⑤ がん相談支援センターについて、診療の経過の中で患者が必要とするときに確実に利用できるよう繰り返し案内を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)
がん治療の終了後も長期的に利用可能な旨も併せて説明している。	A	はい	(はい/いいえ)
相談支援センターにおいて、以下の業務を行っている。(相談件数については、1回の相談で複数の内容について相談された場合は、それぞれの項目に計上して良い。)			
ア 小児がんの病態、標準的治療法等小児がん診療等に関する一般的な情報の提供をしている。	A	はい	(はい/いいえ)
アの相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	119	件
上記アのうち、患者が相談時に20歳未満の相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	89	件
イ 領域別の小児がん診療機能、診療実績および医療従事者の専門とする分野・経歴など、小児がん連携病院等および医療従事者に関する情報の収集、提供をしている。	A	はい	(はい/いいえ)
イの相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	6	件
上記イのうち、患者が相談時に20歳未満の相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	6	件
ウ セカンドオピニオンの提示が可能な医師の紹介をしている。	A	はい	(はい/いいえ)
ウの相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	12	件
上記ウのうち、患者が相談時に20歳未満の相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	12	件
エ 小児・AYA世代のがん患者の発育及び療養上の相談に対応し支援をしている。	A	はい	(はい/いいえ)
エの相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	259	件
上記エのうち、患者が相談時に20歳未満の相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	204	件
エのうち、発育に関する相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	2	件
上記発育に関する相談件数のうち、患者が相談時に20歳未満の相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	0	件
エのうち、教育に関する相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	70	件
上記教育に関する相談件数のうち、患者が相談時に20歳未満の相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	70	件
エのうち、就労に関する相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	36	件
上記就労に関する相談件数のうち、患者が相談時に20歳未満の相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	6	件
エのうち、がん診療連携拠点病院等のがん相談支援センター等と連携し対応した相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	0	件
上記の「がん診療連携拠点病院等のがん相談支援センター等と連携し対応した相談件数」のうち、患者が相談時に20歳未満の相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	0	件
オ がん・生殖医療に関する相談に対応し支援を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)
オの相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	0	件
上記オのうち、患者が相談時に20歳未満の相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	0	件
カ 長期フォローアップに関する相談に対応し支援を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)
カの相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	21	件
上記カのうち、患者が相談時に20歳未満の相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	1	件
キ がんゲノム医療に関する相談に対応し支援を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)
キの相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	0	件
上記キのうち、患者が相談時に20歳未満の相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	0	件
ク アピアランスケアに関する相談に対応し支援を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)
クの相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	24	件
上記クのうち、患者が相談時に20歳未満の相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	23	件

ケ	患者のきょうだいを含む家族に対する支援を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)
	ケの相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	45	件
	上記ケのうち、患者が相談時に20歳未満の相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	35	件
コ	医療関係者と患者会等が共同で運営するサポートグループ活動や患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援をしている。	A	はい	(はい/いいえ)
	コの相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	61	件
	上記コのうち、患者が相談時に20歳未満の相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	41	件
サ	必要に応じて、小児がん連携病院や地域の医療機関等に対して相談支援に関する支援を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)
	サの相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	0	件
	上記サのうち、患者が相談時に20歳未満の相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	0	件
シ	その他相談支援に関することをやっている。	A	はい	(はい/いいえ)
	シの相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	48	件
	上記シのうち、患者が相談時に20歳未満の相談件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	44	件
<b>(2)院内がん登録</b>				
①	がん登録等の推進に関する法律(平成25年法律第111号)第44条第1項の規定に基づき定められた、院内がん登録の実施に係る指針(平成27年厚生労働省告示第470号)に即して院内がん登録を実施している。	A	はい	(はい/いいえ)
②	院内がん登録の指針に基づき国立がん研究センターが提供する研修で認定を受けており、かつ中級認定者相当の技能を有する院内がん登録の実務を担う者の人数。	A	2	人 1人以上
	うち専従者の人数	-	2	人
	配置された者は国立がん研究センターが示すがん登録に係るマニュアルに習熟している。	A	はい	(はい/いいえ)
③	毎年、最新の登録情報や、予後を含めた情報を国立がん研究センターに提供している。	A	はい	(はい/いいえ)
④	院内がん登録を活用することにより、都道府県の実施するがん対策等に必要情報を提供している。	A	はい	(はい/いいえ)
<b>(3)診療実績、診療機能等の情報提供</b>				
	小児がん及びAYA世代で発症するがんについて、自施設及び自らが指定した小児がん連携病院の診療実績、診療機能及び医療従事者の専門とする分野・経歴などを、わかりやすく情報提供している。	A	はい	(はい/いいえ)
	大規模災害や感染症の流行などにより自院の診療状況に変化が生じた場合には、速やかに情報公開をするよう努めている。	A	はい	(はい/いいえ)
	情報提供の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-		医療機関のwebサイトに掲載
<b>4 患者の発育及び教育等に関して必要な環境整備</b>				
(1)	保育士を配置している。	A	はい	(はい/いいえ)
	小児がん患者の保育に携わる保育士の人数	-	6	人
	小児がん患者の保育に携わる保育士のうち常勤の人数	-	1	人
(2)	病弱等の特別支援学校または小中学校の病弱・身体虚弱等の特別支援学級による教育支援(特別支援学校による訪問教育を含む。)が行われている。	A	はい	(はい/いいえ)
	義務教育段階だけではなく、高等学校段階においても必要な教育支援を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)
	特別支援学校(養護学校)の分校・分教室がある。	-	はい	(はい/いいえ)
	特別支援学校(養護学校)による訪問教育を行っている。	-	いいえ	(はい/いいえ)
	病院内に特別支援学級が設置されている。	-	いいえ	(はい/いいえ)
(3)	退院時の復園および復学支援が行われている。	A	はい	(はい/いいえ)
(4)	子どもの発達段階に応じた遊戯室等を設置している。	A	はい	(はい/いいえ)
	AYA世代(思春期および若年成人)のための場所を確保している。	-	はい	(はい/いいえ)
(5)	家族等が利用できる長期滞在施設またはこれに準じる施設が整備されている。	A	はい	(はい/いいえ)
	部屋数	-	14	部屋
	長期滞在施設が自施設内に設置されている。	-	はい	(はい/いいえ)
	長期滞在施設またはこれに準じる施設について別紙12に記載すること。	-		別紙12
(6)	家族等の希望により、24時間面会または患者の付き添いができる体制を構築している。	A	はい	(はい/いいえ)
	この体制の質の向上についても積極的に取り組んでいる。	A	はい	(はい/いいえ)
(7)	患者のきょうだいに対する保育の体制整備を行っている。	B	はい	(はい/いいえ)
(8)	教育課程によらず、切れ目のない教育支援のためにICT(情報通信技術)等を活用した学習活動を含めた学習環境の整備を進めている。	A	はい	(はい/いいえ)
(9)	小児がん患者の精神的なケアに関して、対応方法や関係機関との連携について明確にしている。	A	はい	(はい/いいえ)
	関係職種に情報共有を行う体制を構築している。	A	はい	(はい/いいえ)
	自施設に精神科、心療内科等があり、自施設で対応できる体制を整備している。	A	はい	(はい/いいえ)
	自施設に精神科、心療内科等がない場合は、地域の医療機関と連携体制を確保している。	-	いいえ	(はい/いいえ)
	(自施設に精神科・心療内科等があり、自施設で小児がん患者の精神的なケアができる場合には"いいえ"を選択してください。)	-		
<b>5 臨床研究等に関すること</b>				
	他の拠点病院や小児がん連携病院とも連携し、オールジャパン体制で臨床研究を推進している。	A	はい	(はい/いいえ)
(1)	治験を除く臨床研究を行うに当たっては、臨床研究法(平成29年法律第16号)に則った体制を整備している。	A	はい	(はい/いいえ)
(2)	進行中の治験を除く臨床研究の概要および過去の治験を除く臨床研究の成果を広報している。	A	はい	(はい/いいえ)
	広報の手段について、簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-		院内掲示、HP、論文発表、学会発表
(3)	自施設で参加可能な治験について、その対象であるがんの種類および薬剤名等を広報している。	A	はい	(はい/いいえ)
	広報の手段について、簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-		院内掲示、HP、論文発表、学会発表
(4)	臨床研究を支援する専門の部署を設置している。	B	はい	(はい/いいえ)
	設置していない場合は設置の予定時期	-	年 月	(西暦XXXX年XX月)
(5)	臨床研究コーディネーター(CRC)を配置している。	B	はい	(はい/いいえ)
	臨床研究コーディネーターを配置している場合、その人数(設置していない場合は0と記入)	-	16	人
(6)	小児がん中央機関等と連携して、治験に関して患者に対する情報提供に努め、国内の連携体制を構築している。	A	はい	(はい/いいえ)
	臨床研究の問い合わせ窓口について別紙13に記載すること。	-		別紙13
	小児がんに関する、臨床研究の実施総件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	32	件
	小児がんに関する、臨床試験以外の臨床研究実施総件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	52	件
	小児がんに関する、治験の実施総件数(令和5年1月1日～12月31日)	-	2	件

6 医療の質の継続的な評価改善の取組及び安全管理			
(1)	自施設及び小児がん連携病院の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、がん患者の療養生活の質について把握・評価し、課題認識を関係者で共有した上で、適切な改善策を講じている。 把握・評価の方法、改善策等について別紙14に記載すること。	A	はい (はい/いいえ) 別紙14
(2)	これらの実施状況につき、地域ブロック協議会において、情報共有と相互評価を行うとともに、地域に対してわかりやすく広報を行っている。 地域への広報の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	A	はい (はい/いいえ) 医療機関のwebサイトに掲載
(3)	小児がん医療について、外部機関による技術能力についての施設認定(以下「第三者認定」という。)を受けた医療施設である。 一般社団法人日本小児血液・がん学会が認定する「日本小児血液・がん専門医研修施設」である。 一般社団法人日本小児外科学会が認定する「認定施設」である。	A	はい (はい/いいえ) はい (はい/いいえ) はい (はい/いいえ)
(4)	小児がんに係る骨髄・さい帯血等の移植医療について、第三者認定を受けた医療施設である。 一般社団法人日本造血・免疫細胞療法学会の非血縁者間造血幹細胞移植を施行する診療科の認定カテゴリーについてご回答ください。	A	はい (はい/いいえ) 1 (1/2/3)
(5)	医療法(昭和23年法律第205号)に基づく医療安全にかかる適切な体制を確保している。 日本医療機能評価機構の審査等の第三者による評価を受けている。	A	はい (はい/いいえ) はい (はい/いいえ)
その他 医療安全体制			
(1)	組織上明確に位置づけられた医療に係る安全管理を行う部門(以下「医療安全管理部門」という。)を設置し、病院一体として医療安全対策を講じている。また、当該部門の長として常勤の医師を配置している。	-	はい (はい/いいえ)
(2)	医療に係る安全管理を行う者(以下「医療安全管理者」という。)として(1)に規定する医師に加え、専任で常勤の薬剤師及び専従で常勤の看護師を配置している。	-	はい (はい/いいえ)
(3)	医療安全管理者は、医療安全対策に係る研修を受講している。	-	はい (はい/いいえ)
(4)	当該施設で未承認新規医薬品の使用や承認薬の適応外使用や高難度新規医療技術を用いた医療の提供を実施している。 当該施設で未承認新規医薬品の使用や承認薬の適応外使用や高難度新規医療技術を用いた医療の提供を実施する場合は、以下の体制を整備している。※上段で「いいえ」の場合、以下の3つの項目は、「-」を選択してください。	-	はい (はい/いいえ)
	① 当該医療の適応の安全性や妥当性、倫理性について検討するための組織(倫理審査委員会、薬事委員会等。なお当該組織は既設の組織であっても構わない。)において、病院として事前に検討を行っている。	-	はい (はい/いいえ/-)
	② 事前検討を行い、承認された医療を提供する際には、患者・家族に対し適切な説明を行い、書面での同意を得た上で提供している。	-	はい (はい/いいえ/-)
	③ 提供した医療について、事後評価を行っている。	-	はい (はい/いいえ/-)
(5)	医療安全のための患者窓口を設置し、患者からの苦情や相談に応じられる体制を確保している。 医療安全体制について別紙15に記載すること。	-	はい (はい/いいえ) 別紙15
未充足の要件			
	必須要件のうち、令和6年9月1日時点で充足していないものについて、別紙16に記載すること。		別紙16

## 各種小児がんの情報

記載の有無: 入力済 / 未入力あり 入力済

小児がんについての対応状況を記載してください。

※ 各医療機関において「専門とするがん」とは、集学的治療および緩和ケアを提供する体制が整備されているとともに、各学会の診療ガイドラインに準ずる標準的治療等のがん患者の状態に応じた適切な治療を提供する体制が整備されているがんのことをさします。

※ 診療を実施していないがんについて、表の記載は不要です。

### 小児脳腫瘍

病院名: 京都府立医科大学附属病院

時期・期間: 令和6年9月1日現在(実績は令和5年1月1日～12月31日)

○ (○: 専門とするがん / ×: 診療を実施していないがん)

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数												当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ									
主な診療科名 (3診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数	手術	化学療法	放射線療法				陽子線治療	その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と合わせてください			各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください		掲載されている内容					
					体外照射	定位放射線療法	IMRT	小線源治療		他の治療(1)	他の治療(2)	他の治療(3)		見出し	アドレス	治療内容	治療実績	医師の専門分野			
1 小児科	16	6	○	○	○	×	○	○	○						エビデンスに基づいた標準治療はもちろんのこと、臨床試験や先進的な治療など患者さん一人ひとりに応じた最適な治療を行うよう心がけています。脳神経外科、放射線科と協力し、集学的治療を行なっています。遺伝子パネル検査に基づき、標的治療や臨床試験、治療につなげています。また、リハビリテーションや緩和ケアチーム・外来による患者・家族のサポートにも力をいれています。	京都府立医科大学での小児がん治療	<a href="http://www.fkpu-m.ac.jp/k/ped/cancer/">http://www.fkpu-m.ac.jp/k/ped/cancer/</a>	掲載あり	掲載あり	掲載あり	
2 脳神経外科	15	4	○	○	○	○	○	○					関係診療科・他職種と緊密に連携し高度な医療を提供するよう努めています	脳神経外科学教室	<a href="https://neurosurgery-kpum.jp/">https://neurosurgery-kpum.jp/</a>	掲載あり	掲載あり	掲載あり			
3 放射線科	9	2			○	○	○	○	○				緊急照射を含めた放射線治療に対応します。カンサーボードでは、画像診断医および放射線治療医の立場から、最善の診療方針を決定することに貢献します。	放射線治療部門紹介スタッフ紹介	<a href="https://radiol.kpu-m.jp/class/diagnosing/radiation.html">https://radiol.kpu-m.jp/class/diagnosing/radiation.html</a> <a href="https://radiol.kpu-m.jp/firststep/stuff.html">https://radiol.kpu-m.jp/firststep/stuff.html</a>	掲載あり	掲載あり	掲載あり			
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください					治療名							治療内容									
他の治療(1)																					
他の治療(2)																					
他の治療(3)																					
治療実績のある疾患名 ※(令和5年1月1日～12月31日)					髄芽腫、中枢神経胚細胞腫瘍、上衣腫、神経膠腫、非定型奇形腫様/ラブドイド腫瘍、脈絡叢癌																

小児の眼・眼窩腫瘍

○ (○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数														各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ							
主な診療科名 (3診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数	手術	冷凍凝固術	光凝固術	化学療法	眼動注	放射線療法			陽子線治療	その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と合わせてください			※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	掲載されている内容						
								体外照射	IMRT	小線源治療		他の治療(1)	他の治療(2)			他の治療(3)	治療内容	治療実績	医師の専門分野			
															見出し	アドレス						
1	小児科	16	6	○	○	○	○	×	○	○	×	○					エビデンスに基づいた標準治療はもちろんのこと、先進的な治療や、患者さん一人ひとりに応じた最適な治療を行うよう心がけています。眼科および国立がんセンター眼科と協力して治療を行っています。また、リハビリテーションや緩和ケアチーム・外来による患者・家族のサポートにも力をいれています。	京都府立医科大学での小児がん治療	<a href="http://www.f.kpu-m.ac.jp/k/ped/cancer/">http://www.f.kpu-m.ac.jp/k/ped/cancer/</a>	掲載あり	掲載あり	掲載あり
2	眼科	24	6	○	○	○	×	×	×	×	×	×					眼窩内腫瘍に対しては、必要に応じて骨切りを併用し、比較的深部の腫瘍も全摘出が可能です。悪性が疑われる場合は、速やかに生検を行い、病理組織検査を施行し、その後の治療を決定します。網膜芽細胞腫に対しては小児科と合同で診察を行い、場合によっては眼球摘出を行います。			掲載なし	掲載なし	掲載なし
3	放射線科	9	2						○	○	○	○					緊急照射を含めた放射線治療に対応します。カンサーボードでは、画像診断医および放射線治療医の立場から、最善の診療方針を決定することに貢献します。	放射線治療部門紹介 スタッフ紹介	<a href="https://radiol.kpu-m.jp/class/diagnosing/radiation.html">https://radiol.kpu-m.jp/class/diagnosing/radiation.html</a> <a href="https://radiol.kpu-m.jp/firststep/stuff.html">https://radiol.kpu-m.jp/firststep/stuff.html</a>	掲載あり	掲載あり	掲載あり
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください				治療名				治療内容														
他の治療(1)																						
他の治療(2)																						
他の治療(3)																						
治療実績のある疾患名 ※(令和5年1月1日～12月31日)				網膜芽細胞腫																		

小児悪性骨軟部腫瘍

○ (○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数														各診療科における当該疾患の診療の特色・患者さんへのメッセージなど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ					
主な診療科名 (3診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数					化学療法	放射線療法		陽子線治療	重粒子線治療	その他の治療法があれば記載※下記のその他の治療法欄と合わせてください			※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	掲載されている内容				
			切・離断術	患肢温存術	再建術	骨移植術		体外照射	小線源治療			他の治療(1)	他の治療(2)			他の治療(3)	治療内容	治療実績	医師の専門分野	
																				見出し
1 小児科	16	6	○	○	○	○	○	○	○	○	×				エビデンスに基づいた標準治療はもちろんのこと、臨床試験や先進的な治療など患者さん一人ひとりに応じた最適な治療を行うよう心がけています。整形外科、放射線科と協力し、集学的治療を行なっています。遺伝子パネル検査に基づき、標的治療や臨床試験、治験につなげています。また、リハビリテーションや緩和ケアチーム・外来による患者・家族のサポートにも力をいれています。	京都府立医科大学での小児がん治療	<a href="http://www.f.kpu-m.ac.jp/k/ped/cancer/">http://www.f.kpu-m.ac.jp/k/ped/cancer/</a>	掲載あり	掲載あり	掲載あり
2 放射線科	9	2						○	○	○					緊急照射を含めた放射線治療に対応します。がんセンターでは、画像診断医および放射線治療医の立場から、最善の診療方針を決定することに貢献します。	放射線治療部門紹介スタッフ紹介	<a href="https://radiol.kpu-m.jp/class/diagnosing/radiation.html">https://radiol.kpu-m.jp/class/diagnosing/radiation.html</a> <a href="https://radiol.kpu-m.jp/firststep/stuff.html">https://radiol.kpu-m.jp/firststep/stuff.html</a>	掲載あり	掲載あり	掲載あり
3 整形外科	30	3	○	○	○	○	×	×	×	×	×					骨・軟部腫瘍クリニック	<a href="https://kpumortho.com/professional_clinic/shuyou.html">https://kpumortho.com/professional_clinic/shuyou.html</a>	掲載あり	掲載なし	掲載あり
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください			治療名									治療内容								
他の治療(1)																				
他の治療(2)																				
他の治療(3)																				
治療実績のある疾患名 ※(令和5年1月1日～12月31日)			骨肉腫、横紋筋肉腫、ユーイング肉腫																	

その他の小児固形腫瘍

○ (○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数											各診療科における当該疾患の診療の特色・患者さんへのメッセージなど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ					
主な診療科名 (3診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数	手術	化学療法	放射線療法		陽子線治療	その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と合わせてください				※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	掲載されている内容				
					体外照射	小線源治療		他の治療(1)	他の治療(2)	他の治療(3)			治療内容	治療実績	医師の専門分野		
												見出し	アドレス				
1	小児科	16	6	○	○	○	○	○	○	○	○	エビデンスに基づいた標準治療はもちろんのこと、臨床試験や先進的な治療など患者さん一人ひとりに応じた最適な治療を行うよう心がけています。手術、放射線治療などを併用した集学的治療を行っています。遺伝子パネル検査に基づき、標的治療や臨床試験、治験につなげています。また、リハビリテーションや緩和ケアチーム・外来による患者・家族のサポートにも力をいれています。	京都府立医科大学での小児がん治療	<a href="http://www.f.kpu-m.ac.jp/k/ped/cancer/">http://www.f.kpu-m.ac.jp/k/ped/cancer/</a>	掲載あり	掲載あり	掲載あり
2	小児外科	13	2	○	×	×	×	×	×	×	×	関係各科と密接に連携して治療を行います。根治性と低侵襲性を両立させた外科治療を目指します。	京都府立医科大学小児外科	<a href="http://pedsurg.kpu-m.ac.jp/">http://pedsurg.kpu-m.ac.jp/</a>	掲載あり	掲載あり	掲載あり
3	放射線科	9	2			○	○	○				緊急照射を含めた放射線治療に対応します。がんセンターでは、画像診断医および放射線治療医の立場から、最善の診療方針を決定することに貢献します。	放射線治療部門紹介 スタッフ紹介	<a href="https://radiol.kpu-m.jp/class/diagnosing/radiation.html">https://radiol.kpu-m.jp/class/diagnosing/radiation.html</a> <a href="https://radiol.kpu-m.jp/firststep/stuff.html">https://radiol.kpu-m.jp/firststep/stuff.html</a>	掲載あり	掲載あり	掲載あり
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください					治療名						治療内容						
他の治療(1)					GD2抗体療法						大量化学療法後の神経芽腫に対するGD2抗体療法						
他の治療(2)																	
他の治療(3)																	
治療実績のある疾患名 ※(令和5年1月1日～12月31日)					神経芽腫、腎芽腫、肝芽腫												

小児血液腫瘍

○：専門とするがん/×：診療を実施していないがん

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数												各診療科における当該疾患の診療の特色・患者さんへのメッセージなど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ						
主な診療科名 (3診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数	化学療法	移植			放射線療法		その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と合わせてください				※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	掲載されている内容					
				自家末梢血幹細胞移植	血縁者間同種造血幹細胞移植	非血縁者間同種造血幹細胞移植	体外照射	全身照射	他の治療(1)	他の治療(2)	他の治療(3)			見出し	アドレス	治療内容	治療実績	医師の専門分野	
																			治療内容
1 小児科	16	6	○	○	○	○	×	○	○				エビデンスに基づいた標準治療はもちろんのこと、先進的な治療や、患者さん一人ひとりに応じた最適な治療を行うよう心がけています。HLA半合致移植やCAR-T療法にも対応しています。また、リハビリテーションや緩和ケアチーム・外来による患者・家族のサポートにも力をいれています。	京都府立医科大学での小児がん治療	<a href="http://www.f.kpu-m.ac.jp/k/ped/cancer/">http://www.f.kpu-m.ac.jp/k/ped/cancer/</a>	掲載あり	掲載あり	掲載あり	
2 放射線科	9	2	×	×	×	×	○	○					緊急照射を含めた放射線治療に対応します。カンサーボードでは、画像診断医および放射線治療医の立場から、最善の診療方針を決定することにご貢献します。	放射線治療部門紹介スタッフ紹介	<a href="https://radiol.kpu-m.jp/class/diagnosing/radiation.html">https://radiol.kpu-m.jp/class/diagnosing/radiation.html</a> <a href="https://radiol.kpu-m.jp/firststep/stuff.html">https://radiol.kpu-m.jp/firststep/stuff.html</a>	掲載あり	掲載あり	掲載あり	
3																			

その他の治療法 ※上記の実績欄と合わせて記載してください	治療名	治療内容
他の治療(1)	CD19 CAR-T療法	CD19陽性急性リンパ性白血病およびDLBCLを対象としたCAR-T療法
他の治療(2)		
他の治療(3)		
治療実績のある疾患名 ※(令和5年1月1日～12月31日)	急性リンパ性白血病、悪性リンパ腫(ホジキンリンパ腫、非ホジキンリンパ腫)、若年性骨髄単球性白血病、ランゲルハンス細胞組織球症	

## 生殖機能の温存の支援を行う体制

記載の有無: 入力済 / 未入力あり

入力済

病院名: 京都市立医科大学附属病院

時期・期間: 令和6年9月1日現在(実績は令和5年1月1日～12月31日)

■ 令和5年1月1日～12月31日の期間に生殖機能の温存の支援を行った患者数について記載すること。

	がん治療に際して以下にかかる治療を自施設で行った患者数	がん治療に際して以下にかかる治療を他施設へ紹介して行った患者数
がんの治療に際する妊孕性温存目的で精子凍結を行った患者の数	3	1
上記のうち、がんの治療に際する妊孕性温存目的で精巣内精子採取術(Onco-TESE)を行った患者の数	0	1
がんの治療に際する妊孕性温存目的で未受精卵子の凍結保存を行った患者の数	2	0
がんの治療に際する妊孕性温存目的で受精卵(胚)の凍結保存を行った患者の数	0	0
がんの治療に際する妊孕性温存目的で卵巣組織の凍結保存を行った患者の数	1	0

上記のうち、温存療法施行時に【20歳未満】である患者数について内数を以下に記載すること。

	がん治療に際して以下にかかる治療を自施設で行った患者数	がん治療に際して以下にかかる治療を他施設へ紹介して行った患者数
がんの治療に際する妊孕性温存目的で精子凍結を行った患者の数	2	0
上記のうち、がんの治療に際する妊孕性温存目的で精巣内精子採取術(Onco-TESE)を行った患者の数	0	0
がんの治療に際する妊孕性温存目的で未受精卵子の凍結保存を行った患者の数	0	0
がんの治療に際する妊孕性温存目的で受精卵(胚)の凍結保存を行った患者の数	0	0
がんの治療に際する妊孕性温存目的で卵巣組織の凍結保存を行った患者の数	1	0

■ がん患者の妊孕性温存に関する連携協力体制について記載すること。

①相談に対応している部署

- がん相談支援センター
- 化学療法室
- 各診療科外来
- その他部署

はい	(はい / いいえ)
はい	(はい / いいえ)
はい	(はい / いいえ)

産婦人科 小児科	(複数回答可)
足立病院 田村秀子産婦人科 オーク住吉産婦人科 オーク梅田レディースクリニック ク いちおか泌尿器科クリニック	(複数回答可)

②他施設に紹介する場合の施設名

■生殖機能の温存の支援を行う体制について記載すること。(他施設との連携がある場合は、その連携についても記載すること)

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙2を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

あり

(あり/なし)

ファイル形式

パワーポイント

(ワード/エクセル/パワーポイント/その他)

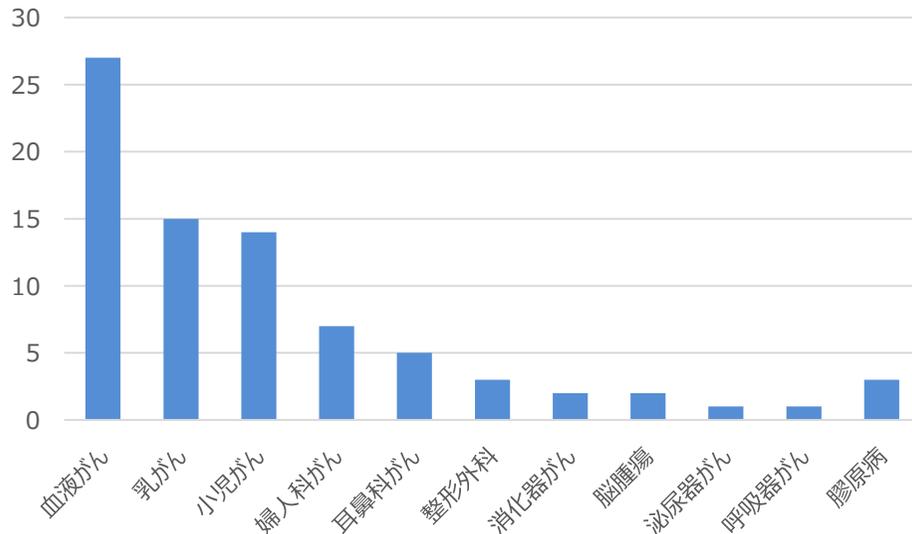
その他の場合ファイル形式を記載してください。

# 別紙2 別添

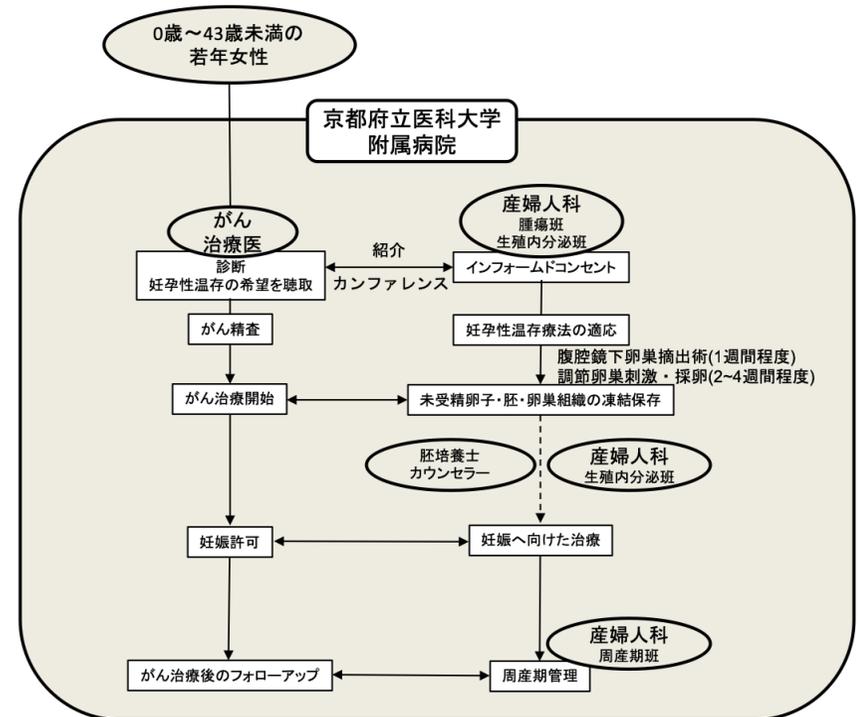
## ①京都府立医科大学における生殖機能温存の支援体制

特定不妊治療指定医療機関でもある本院では、小児・AYA世代、若年成人がん患者に対する妊孕性温存療法の提供体制確立のために、**2017年3月にがん・生殖医療センターを設置**、妊孕性温存療法を受ける際の**患者紹介ワークフローを整備**し、産婦人科医や主科のがん治療医、胚培養士、カウンセラー等と密接に連携しながら妊孕性温存治療を行っている。精子凍結保存については、他医療機関（足立病院）と連携を進めている。**日本産科婦人科学会の承認する妊孕性温存療法実施医療機関であり、本承認により国の助成金制度への参加が可能**となっている。地域ネットワークである**京都・がんと生殖医療ネットワーク（KOF-net）**にも拠点病院として参加し、中心的役割を果たしている。**小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業へ参画**しており、京都府立医科大学小児科スタッフは、同事業の研究班の班員である。がん・生殖医療に関する意思決定支援を行うことができる診療従事者として、**日本がん・生殖医療学会認定ナビゲーターを配置**している。

当院がん・生殖医療センターにおける実績  
(2017年3月～現在)



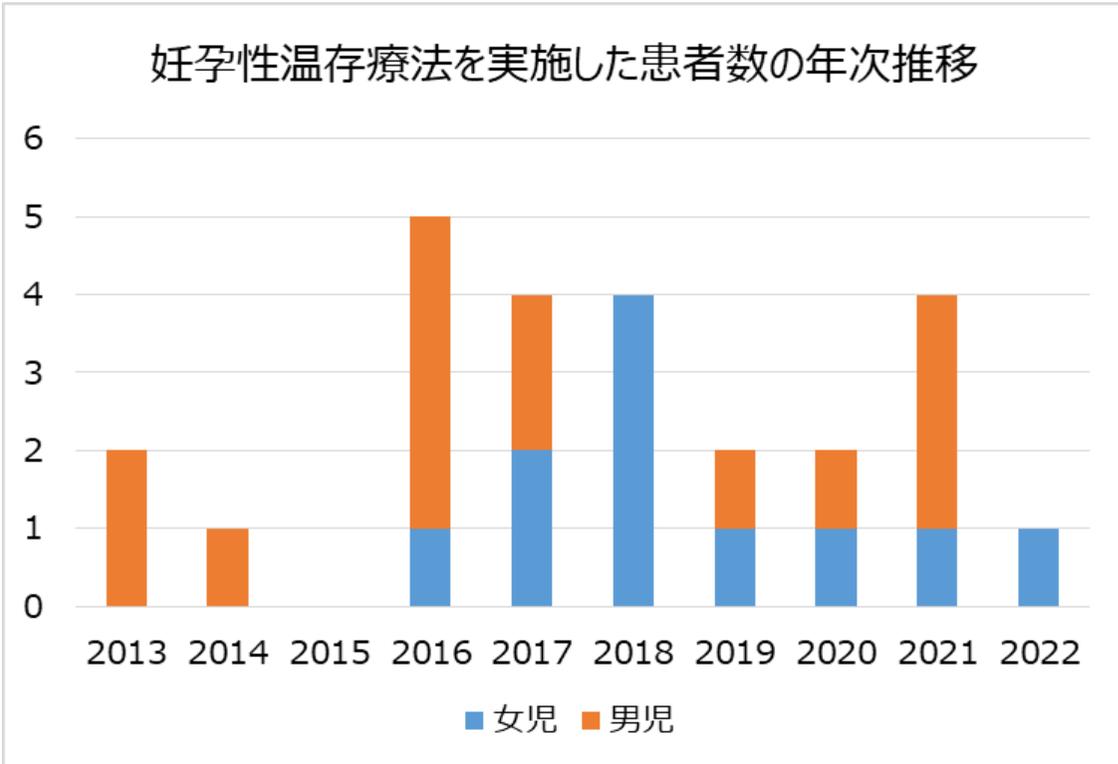
京都府立医科大学がん・生殖医療センターへの紹介フロー



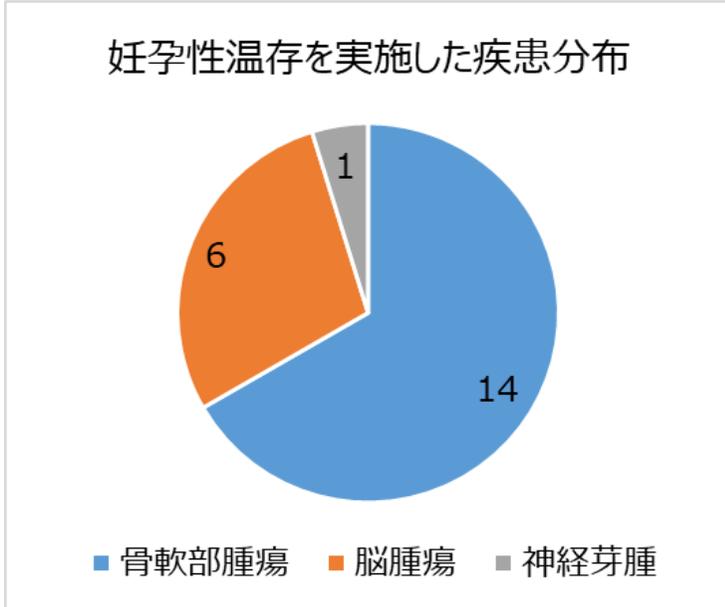
## ② 京都府立医科大学での小児がん患者の妊孕性温存療法の実際

2013年～2022年の間に、京都府立医科大学小児医療センターで治療を受けた小児がん、AYA世代がん患者のうち、**21名（5歳-23歳、中央値 15歳、男性9名、女性12名）**の患者が妊孕性温存療法を受けている。妊孕性温存療法を実施した患者数の推移では、「**小児、思春期、若年がん患者の妊孕性温存に関する診療ガイドライン**」が刊行された**2017年頃より、女児の妊孕性温存療法の実施が増加している**。実施された妊孕性温存治療の内訳は、精子凍結保存8名（うち、精巣内精子採取術1名）、精巣移動術1名、卵巣組織凍結保存9名、卵子凍結保存1名、卵巣移動術2名であった。疾患では、骨軟部腫瘍14名、脳腫瘍6名、神経芽腫1名であった。

京都府立医科大学附属病院で治療を行った小児がん患者のうちで、妊孕性温存療法を行った患者数の年次推移と内訳（2013年-2022年）



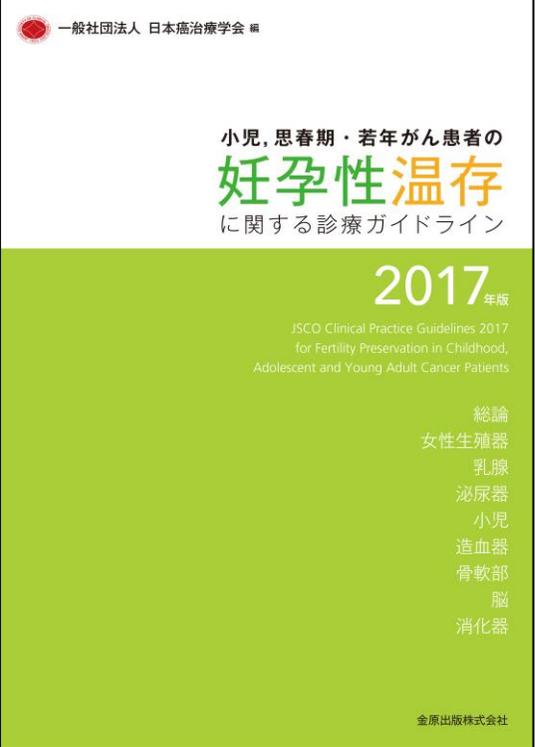
実施された妊孕性温存治療	人数
精子凍結保存	8人
精巣移動術	1人
卵巣組織凍結保存	9人
卵子凍結保存	1人
卵巣移動術	2人



# ③小児・思春期、若年がん患者の生殖機能温存の体制確立や啓発活動をリード

2017年に、日本がん治療学会が中心となって、「小児、思春期、若年がん患者の妊孕性温存に関する診療ガイドライン」が制定されたが、小児の項については、京都府立医科大学小児科スタッフが中心となって作成した。現在、本ガイドラインの改訂作業が進んでおり、当科から評価委員、システマティックレビュー委員として参加している。また、京都府立医科大学小児科スタッフが、多数の小児がん患者に対する妊孕性温存療法に関する総説執筆、講演活動を行っており、我が国の小児がん患者に対する妊孕性温存療法の体制確立や啓発活動をリードしている。

当院スタッフが著者となっている文献



・【小児がんプロフェッショナル養成講座-基礎編】妊孕性温存療法の展開(解説)  
小児外科52巻5号 Page514-518(2020)

・小児,思春期・若年がん患者の妊孕性温存に関する診療ガイドライン 小児がん領域について(総説)  
小児科60巻10号 Page1367-1374(2019)

・小児がん放射線治療における外科的支持療法としての性腺移動術  
京都府立医科大学雑誌128巻12号(2019)

・【新時代に入ったがん・生殖医療】小児、思春期・若年がん患者の妊孕性温存に関する診療ガイドラインに沿った臨床の展開 小児(解説)  
産科と婦人科86巻4号 Page469-474(2019)

・化学療法開始前に精巣内精子採取を行った仙骨部ユーイング肉腫の一例(原著論文)  
日本小児血液・がん学会雑誌55巻3号 Page320-323(2018)

■The Japanese Journal of Pediatric Hematology/Oncology vol. 55(3); 320-323, 2018 / 症例報告 /

化学療法開始前に精巣内精子採取を行った仙骨部ユーイング肉腫の一例  
富田晃正<sup>1</sup>, 富地 充<sup>1\*</sup>, 槻生茂希<sup>1</sup>, 土屋邦彦<sup>1</sup>, 家原知子<sup>1</sup>, 小原将人<sup>1</sup>, 石橋秀隆<sup>1</sup>, 外村 仁<sup>1</sup>, 寺内 竜<sup>1</sup>, 白井寿治<sup>1</sup>, 久保俊一<sup>2</sup>, 市岡健太郎<sup>1</sup>, 細井 創<sup>1</sup>

<sup>1</sup>京都府立医科大学附属病院小児科  
<sup>2</sup>京都府立医科大学附属病院整形外科  
\*執筆責任:小児がん診療科スタッフ

Fertility preservation by testicular sperm extraction in a young patient with extrasosseous Ewing's sarcoma of the pelvis

Akinasa Tomida<sup>1</sup>, Mitsuru Miyachi<sup>1\*</sup>, Shigeki Yagyu<sup>1</sup>, Kimihiko Tsuchiya<sup>1</sup>, Tomoko Jehara<sup>1</sup>, Masato Ohara<sup>1</sup>, Hidemochi Ishibashi<sup>1</sup>, Jun Tononmura<sup>1</sup>, Ryu Terachi<sup>1</sup>, Toshiharu Shirai<sup>1</sup>, Toshiakazu Kubo<sup>1</sup>, Kenzanro Ichikawa<sup>1</sup>, Hajime Hosoi<sup>1</sup>

<sup>1</sup>Department of Pediatrics, Graduate School of Medical Science, Kyoto Prefectural University of Medicine  
<sup>2</sup>Department of Orthopedics, Graduate School of Medical Science, Kyoto Prefectural University of Medicine  
<sup>1</sup>Ichikawa Urological Clinic

**Abstract**  
The survival of patients with childhood cancer has improved in recent decades and there is growing recognition of the importance of fertility preservation in these patients. Here, we describe the case of a 17-year-old patient with extrasosseous Ewing's sarcoma of the pelvis who underwent testicular sperm extraction (TESE) to preserve fertility before starting chemotherapy. The patient was admitted because of bladder-rectal disturbance and back pain and Ewing's sarcoma was diagnosed. Sperm collection by masturbation was attempted but ejaculation was not possible because of severe compression by the pelvic tumor. TESE was then performed and an adequate amount of sperm was collected and cryopreserved. Chemotherapy was started on the same day and there was no complications from the TESE. TESE is a safe and minimally invasive option for fertility preservation in postpubertal boys who have childhood cancer and cannot masturbate or ejaculate.  
**Key words:** Ewing's sarcoma, fertility preservation, sperm cryopreservation, testicular sperm extraction

**要 旨**  
小児がん治療による妊孕性喪失の危険性が高い男性の場合、妊孕性温存のため治療開始前に精子凍結保存が望ましい。我々は、精巣内精子採取術 (TESE) により精子凍結保存を行った骨外性ユーイング肉腫の一例の症例を報告した。症例は17歳男性、臀部と仙骨部腫瘍を発症し、仙骨腫瘍の生検によりユーイング肉腫と診断した。妊孕性温存療法として化学療法開始前にマスターベーションによる精子採取を試みたが、骨外性腫瘍による神経圧迫による射精障害のため射精できなかった。3日後にTESEにより精子採取し凍結保存した。術後は同日中に化学療法を開始し、大幅な治療開始の遅延はなくTESEに伴う術後合併症も認めなかった。腫瘍による射精障害がある症例でもTESEにより精子凍結保存が可能である。TESEは短期間、低侵襲で施行可能であり、小児がん治療も知っていただく妊孕性温存療法の選択の一つである。  
**キーワード:** ユーイング肉腫、妊孕性温存、精子保存、精巣内精子採取術

**I はじめに**  
小児がんの晩期合併症の一つに不妊症がある。小児がんは治療による妊孕性喪失の危険性が高い男性の場合、可能であれば治療開始前に精子の凍結保存を行うことが望ましい。精子の採取にマスターベーションによる採取が一般的だが、採集できない場合は精巣から直接精子を採取する精巣内精子採取術 (Testicular Sperm Extraction; 以下、TESE) が考慮される。今回、仙骨骨腫瘍による神経機能障害のため射精障害を有したが、TESEにより精子を保存し得た仙骨部ユーイング肉腫の症例を経験した。

doi: 10.1141/jjpo.55.320  
2017年3月5日受理, 2018年4月13日受理  
\*執筆責任者: 〒602-0841 京都府京都市上京区西野町通西小路上る富田野465  
京都府立医科大学小児科診療室 富地 充  
E-mail: mmiyachi@kcp.jp

# ④ 京都府から、全国のがん生殖医療に対する助成の設立へ

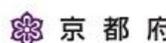
妊孕性温存治療は自費診療であり、高額な医療費京都府立医科大学小児科が中心となって京都府に働きかけ、「京都府がん患者生殖機能温存療法助成事業」の発足に至った。2017年から開始され、行政と連携のもと、小児・AYA世代患者の生殖機能温存の支援を行う体制が確立された。京都府での取り組みは全国に広がり、今年度からは、厚生労働省鈴木班が主導して、小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業が実施され、温存後の生殖補助医療についても対象として、国の事業として助成制度が開始され、京都府でもすでに本事業に対応している。

小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業に参画し、  
京都府がん患者生殖機能温存療法等助成事業について、生殖補助医療を対象として追加し、改正

将来、子どもを産み  
育てることを望むすべての  
がん患者さんとそのご家族へ

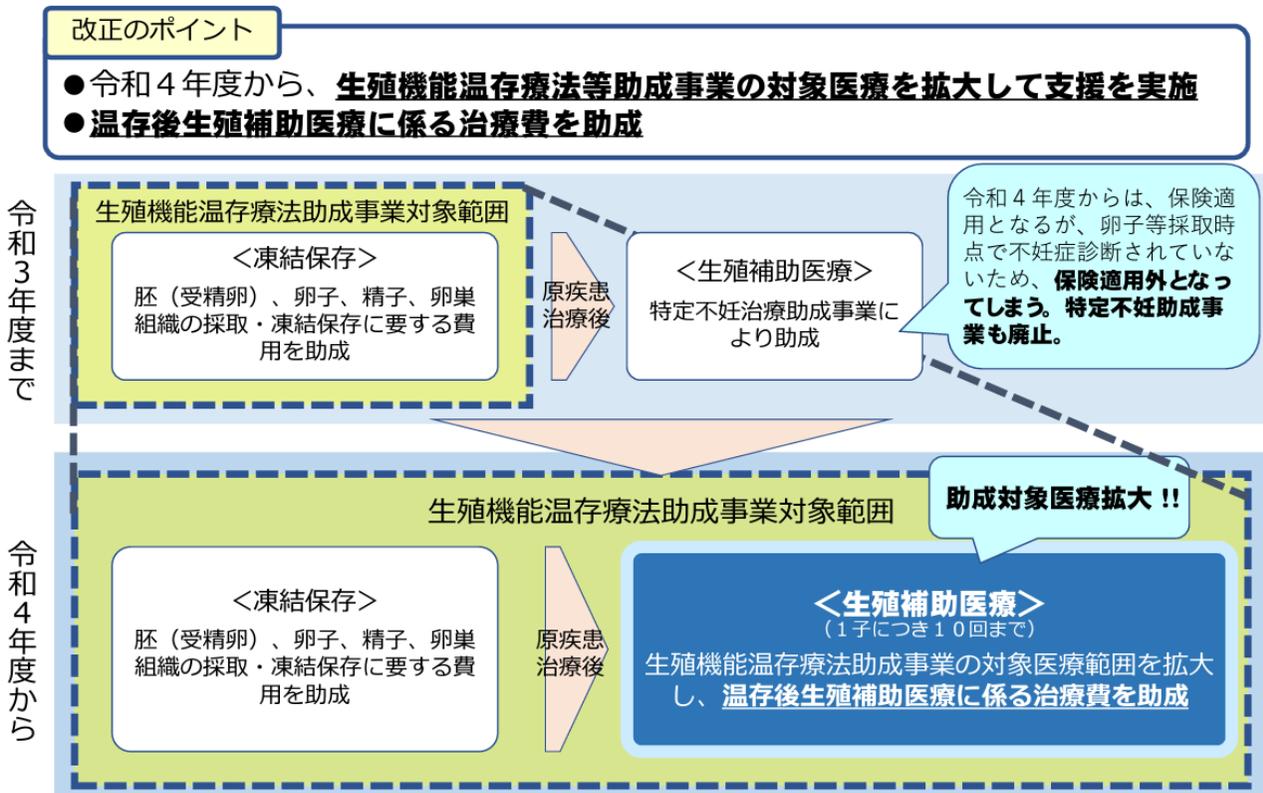
## がん患者生殖機能 温存療法助成事業の ごあんない





京都府

## がん患者等生殖機能温存療法等助成事業改正のポイント



緩和ケアチームの組織・体制

記載の有無: 入力済 / 未入力あり 入力済

病院名: 京都府立医科大学附属病院

時期・期間: 令和6年9月1日現在

緩和ケアチームの総人数: 59

上記のうち、小児がん診療に携わる人数: 28

緩和ケアチームの名称、メンバー等を記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。なお、身体症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師(常勤であることが望ましい)、精神症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師(常勤であることが望ましい)、緩和ケアに携わる専門的な知識および技能を有する常勤の看護師は指定要件に含まれることに留意して記載すること。

緩和ケアチームの名称		緩和ケアチーム		
職種		常勤 / 非常勤	専門分野	資格等
例	医師、看護師、薬剤師	常勤 / 非常勤	麻酔科、精神科、がん看護	緩和ケアに関するものを3つまで記載してください。
1	医師	常勤	疼痛・緩和ケア科、麻酔科	日本ペインクリニック学会専門医、日本緩和医療学会緩和医療指導医、日本緩和医療学会緩和医療専門医
2	医師	常勤	小児科	がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了者
3	医師	常勤	小児外科	がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了者
4	医師	常勤	精神・心療内科	がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了者
5	医師	常勤	消化器内科、脳神経外科、歯科、放射線科	がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了者
6	看護師	常勤	がん看護	がん看護専門看護師、がん薬物療法看護認定看護師、がん放射線療法看護認定看護師、小児看護専門看護師
7	薬剤師	常勤	薬剤部	がん化学療法認定薬剤師、小児薬物療法認定薬剤師
8	臨床心理士	常勤	心理支援	臨床心理士・公認心理士
9	保育士	非常勤	保育、療養環境支援、心理支援	保育を通じた療養環境支援、心理支援を担当
10	管理栄養士	常勤	栄養管理	栄養管理を担当
11	歯科衛生士	常勤	口腔ケア	口腔ケアを担当
12				
13				
14				
15				

## 緩和ケア外来の状況

記載の有無:入力済/未入力あり 入力済

病院名: 京都府立医科大学附属病院

時期・期間: 令和6年9月1日現在

1	緩和ケア外来が設定されている（はい/いいえ）				はい
2	緩和ケア外来の名称 緩和ケア外来、小児緩和ケア外来				
3	担当診療科名 疼痛・緩和ケア科、小児科				
4	主な診療内容・特色 退院後の小児がん患者さまやそのご家族の身体的・心理的サポート、栄養管理、薬剤についての服用指導、社会的サポートなど、全人的ケアを行えるようにしております。疼痛・緩和ケア科担当医はペインクリニックの医師であるため、がん疼痛の管理については特に質の高い医療を提供可能です。				
5	緩和ケア外来の説明が掲載されているページ		見出し 小児緩和ケア外来、小児科 疼痛・緩和ケア科（ペインクリニック）		
			アドレス <a href="https://kpum-ped.com/cancer/hospital.html">https://kpum-ped.com/cancer/hospital.html</a> <a href="https://www.h.kpu-m.ac.jp/doc/departments/clinical-departments/pain-clinic-and-palliative-care.html">https://www.h.kpu-m.ac.jp/doc/departments/clinical-departments/pain-clinic-and-palliative-care.html</a>		
6	他施設でがんの診療を受けている、または、診療を受けていた患者さんを受け入れている（はい/いいえ）				はい
7	■地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）				はい
	窓口の名称 がん相談支援センター				
	電話	代表	075-251-5111	（内線）	直通 075-251-5283
8	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）				はい
	窓口の名称 地域医療連携室				
	電話	代表	075-251-5111	（内線）	直通 075-251-5286

## 緩和ケア病棟の状況

記載の有無: 入力済 / 未入力あり

入力済

病院名: 京都府立医科大学附属病院

時期・期間: 令和6年9月1日現在

※緩和ケア病棟が設定されている場合に限り、「2」以降を記載してください。

1	緩和ケア病棟を有している	病棟があります			
2	緩和ケア病棟入院料の届出・受理	届け出て受理されている			
3	小児の入院可否	可			
4	緩和ケア病棟の形式	院内病棟型			
5	緩和ケア病棟の病床数	8	床		
6	緩和ケア病棟の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください。	見出し	緩和ケアセンター		
		アドレス	<a href="http://www.h.kpu-m.ac.jp/doc/departments/central-sector/palliative-care-center.html">http://www.h.kpu-m.ac.jp/doc/departments/central-sector/palliative-care-center.html</a>		
7	他施設でがんの診療を受けている、または、診療を受けていた患者さんを受け入れている (はい/いいえ)	はい			
8	入院予約後の入院までの待機期間 ※転棟、緊急入院を除く	5日			
9	緩和ケア病棟を担当するスタッフの職種・人数(人)  ※常勤・非常勤、専従・専任・兼任などに関わらず、緩和ケア病棟の診療に携わっているスタッフについて記載してください。	(例) 医師	2	(例) 精神保健福祉士	1
		医師	13		
		看護師	15		
		看護助手	1		
		クラーク	1		
		栄養士	1		
		公認心理師	1		

■地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）										はい
10	窓口の名称		がん相談支援窓口							
	電話	代表	075-251-5111	(内線)	5283	5284		直通		
	問い合わせ窓口について掲載しているホームページ	見出し	緩和ケア病棟に入院を希望される患者様へ			アドレス	<a href="https://www.h.kpu-m.ac.jp/doc/departments/central-sector/files/4213.pdf">https://www.h.kpu-m.ac.jp/doc/departments/central-sector/files/4213.pdf</a>			
■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）										はい
11	窓口の名称		地域医療推進部/地域医療連携室							
	電話	代表	075-251-5111	(内線)	5286			直通		
	問い合わせ窓口について掲載しているホームページ	見出し	医療機関の方へ			アドレス	<a href="https://www.h.kpu-m.ac.jp/doc/for-medical-institutions/information.html">https://www.h.kpu-m.ac.jp/doc/for-medical-institutions/information.html</a>			
12	緩和ケア病棟の設備		例: 家族用キッチン、家族室、談話室、ランドリー、デイルーム(食事や面会者との談話、ボランティアによるティーサービスがある)、特殊入浴室							
			家族用キッチン 家族控室 デイルーム 特浴室 瞑想室 ランドリー 面談室 カンファレンスルーム							
13	訪問看護ケアの有無		例: 自施設で実施している、同一医療法人の施設で実施している、連携している訪問看護ケアステーションを紹介している、など							
			連携している訪問看護ステーションを地域連携室を介して紹介している							

**小児がんに対して、手術、放射線療法または化学療法に携わる専門的な知識  
および技能を有する医師によるセカンドオピニオンを提示する体制**

記載の有無: 入力済 / 未入力あり

入力済

病院名: 京都府立医科大学附属病院

時期・期間: 令和6年9月1日現在(実績は令和5年1月1日～12月31日)

■ 病院のホームページで「セカンドオピニオン」の説明が掲載されているページの内容

ホームページ	見出し	がんセカンドオピニオン外来	アドレス	<a href="https://www.kpu-m.ac.jp/j/drcc/sodan/opinion/goannai.html">https://www.kpu-m.ac.jp/j/drcc/sodan/opinion/goannai.html</a>		
問い合わせ先の電話など	対応可能な疾患名	対応した患者数(実績)	担当する医師の情報			保険診療、または保険外診療である旨
			医師名	診療科	専門分野	
掲載あり	掲載あり	掲載あり	掲載なし	掲載あり	掲載なし	掲載あり

疾患ごとに、セカンドオピニオンを担当する医師に関する情報を5名まで記載してください。

※対応状況で「対応不可」を選択した場合は、「セカンドオピニオンを担当している医師」に関する表への記載は不要です。

**小児脳腫瘍**

○	※別紙1を反映 ○: 専門とするがん ×: 診療を実施していないがん	対応状況 (対応可 / 対応不可)	対応可	昨年の実績 ※令和5年1月1日～12月31日まで	0		件
セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門: ○ / 専門外: ×)	当該疾患の専門分野(専門: ○ / 専門外: ×)				
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください	
1人目	小児科	○	×	○	×		
2人目	脳神経外科	○	○	○	○		
3人目	放射線科	○	×	×	○		

**小児の眼・眼窩腫瘍**

○	※別紙1を反映 ○: 専門とするがん ×: 診療を実施していないがん	対応状況 (対応可 / 対応不可)	対応可	昨年の実績 ※令和5年1月1日～12月31日まで	0		件
セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門: ○ / 専門外: ×)	当該疾患の専門分野(専門: ○ / 専門外: ×)				
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください	
1人目	小児科	○	×	○	×		
2人目	放射線科	○	×	×	○		
3人目	眼科	○	○	×	×		

### 小児悪性骨軟部腫瘍

○	※別紙1を反映 ○:専門とするがん ×:診療を実施していないがん	対応状況 (対応可/対応不可)	対応可	昨年の実績 ※令和5年1月1日~12月31日まで	1	件
セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門:○/専門外:×)	当該疾患の専門分野(専門:○/専門外:×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	小児科	○	×	○	×	
2人目	放射線科	○	×	×	○	
3人目	整形外科	○	○	○	○	

### その他の小児固形腫瘍

○	※別紙1を反映 ○:専門とするがん ×:診療を実施していないがん	対応状況 (対応可/対応不可)	対応可	昨年の実績 ※令和5年1月1日~12月31日まで	6	件
セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門:○/専門外:×)	当該疾患の専門分野(専門:○/専門外:×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	小児科	○	×	○	×	
2人目	小児外科	○	○	×	×	
3人目	放射線科	○	×	×	○	

### 小児血液腫瘍

○	※別紙1を反映 ○:専門とするがん ×:診療を実施していないがん	対応状況 (対応可/対応不可)	対応可	昨年の実績 ※令和5年1月1日~12月31日まで	1	件
セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門:○/専門外:×)	当該疾患の専門分野(専門:○/専門外:×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	小児科	○	×	○	×	造血細胞移植やCAR-T療法にも対応
2人目	放射線科	○	×	×	○	
3人目						

## 小児がんに関する研修の状況

記載の有無: 入力済 / 未入力あり

入力済

病院名: 京都府立医科大学附属病院

時期・期間: 令和5年4月1日～令和6年3月31日

■令和5年4月1日～令和6年3月31日の期間で開催した、小児がん連携病院や地域の医療機関等の多職種診療従事者も参加する研修会等の回数について記載すること

研修会等の総回数(実数)(重複カウント不可 例:診療と臨床試験に関する講義を1つずつ行った研修→1回でカウント)	13
研修会等の総回数(重複カウント可 例:診療と臨床試験に関する講義を1つずつ行った研修→診療と臨床試験にそれぞれ1回ずつカウント)	
うち小児がんの診療に関する研修会等の回数	10
うち小児がんの相談支援に関する研修会等の回数	3
うち小児がんのがん登録に関する研修会等の回数	0
うち小児がんの臨床試験に関する研修会等の回数	0
うち小児がんに関するその他の研修会等の回数	0

■研修の内容について最大5つ、以下に記載すること

※ただし、参加人数については、自施設・自施設以外の内訳が不明である場合には、総数の欄にのみ記載し、自施設・自施設以外の欄は0を記入すること。

研修の名称	研修の内容・特徴	参加人数				総数	実施形態 ①実地開催のみ ②実地+オンラインのハイブリッド開催 ③オンライン開催のみ	他地域ブロックからの参加の可否 ①他地域ブロックからの参加が可能である。 ②同一地域ブロック内の施設のみ参加可能である。
		自施設	自施設以外					
			小児がん拠点病院	小児がん連携病院	その他			
1 KPUM&SUMS Oncology/Hematology Meeting	京都府立医科大学附属病院と連携施設である滋賀医科大学附属病院内の小児がん診療に携わる医療者が一堂に参加して、各施設の症例について提示するとともに、問題となっている症例や連携が必要な症例について詳しく討議して、よりよい小児がん医療の実現を目指す合同カンファレンス。2か月に一度開催している。	10	0	10	0	20	③	②
2 京都府小児がん拠点病院公開シンポジウム	小児がん拠点病院である京都府立医科大学附属病院と京都大学医学部附属病院が、京都府と合同で主催している。年1回開催し、小児がん連携病院や一般医療機関の医療従事者、医療行政担当者、小児がんの患者家族が一堂に会して全員で討議を行い、地域の小児がん医療の質向上につなげている。	15	15	10	30	70	②	②
3 近畿ブロック小児がん拠点病院相談支援部会主催小児がん相談員研修	近畿ブロックにおいて小児がんAYAがん患者を支援する看護師、MSWなどの連携を強化する目的に、『終末期を見据えた小児がんの子どもと家族への支援における相談員の役割』についての研修を行った。	1	7	16	5	29	③	②
4 近畿小児血液・がん研究会看護部門講演会	【小児がん患者の在宅移行の現状と課題】 ①講義「当院の小児がん患者の在宅移行現状と課題」 ②講義「当院の小児がん患者の在宅移行における看護の現状と課題」 ③講義「小児がん連携病院での小児がん患者の在宅移行の現状と課題」 ④講義「小児がん患者の在宅移行後の看護の現状と課題」 ⑤ディスカッション	9	15	18	9	51	③	①
5 京都府小児がん拠点病院看護研修	近畿ブロックの小児がんに関わる看護師等が、小児がん看護に必要な専門的知識(基礎編)を習得し、看護実践能力を向上できるように、また小児がん医療における近畿ブロック全体の連携・協働体制の強化を図り、コロナ禍での他施設看護師との交流の機会情報共有の機会とする。グループワークを実施。 ①講義「小児がんの代表的な疾患と治療について」 ②講義「小児がん看護概論」 ③講義「小児がんの子どもの症状マネジメント」 ④グループワーク「子どもの全人的苦痛について」事例検討	4	5	4	3	16	①	①

がん相談支援センターの体制、相談件数と相談支援内容

記載の有無: 入力済 / 未入力あり

入力済

病院名: 京都府立医科大学附属病院

時期・期間: 令和6年9月1日現在

職種	常勤 / 非常勤	専従 / 専任 / その他※1	相談業務の 経験年数(年)	相談員基礎研修の受講状況			小児がん相談員 専門研修	小児がん相談員 継続研修	
				基礎研修 (1)	基礎研修 (2)	基礎研修 (3)※2			
1	公認心理師/臨床心理士	非常勤	その他	13	受講	受講	受講	未受講	未受講
2	社会福祉士/精神保健福祉士	非常勤	その他	1	受講	受講	受講	未受講	未受講
3	公認心理師/臨床心理士	常勤	その他	9	受講	受講	未受講	未受講	未受講
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									

※1 「その他」については、相談支援に関する業務に従事する時間が就業時間の5割未満である者について、選択してください。

※2 相談員基礎研修(3)については、小児がん拠点病院および小児がん連携病院の指定にあたり必須の要件ではありません。

相談件数について以下留意の上でご回答ください。

「自施設の患者・家族」とは、貴院で診療を受けている患者・家族、および以前に貴院で診療を受けた患者・家族のことをさしています。

「他施設の患者・家族」とは、貴院以外の医療機関で診療を受けている患者・家族、および以前に貴院以外の医療機関で診療を受けていた患者・家族のことをさしています。

なお、自施設と他施設のいずれでも診療を受けている患者・家族については、「自施設の患者・家族」に含めてください。

本設問は相談支援センターでの相談件数及び小児がんに係る相談支援内容についてお伺いしております。

●年間ののべ相談件数(令和5年1月1日～12月31日)

619 件

相談件数 ※新規相談件数に限る (令和5年1月1日～12月31日)

	相談者	計
1	自施設の患者・家族	514
2	他施設の患者・家族	103
3	小児がん連携病院や地域の医療機関の医療従事者	2
	合計	619

●上記年間ののべ相談件数のうち、患者が相談時に【20歳未満】である件数(令和5年1月1日～12月31日)

515 件

患者が相談時に【20歳未満】である相談件数 ※新規相談件数に限る (令和5年1月1日～12月31日)

	相談者	計
1	自施設の患者・家族	435
2	他施設の患者・家族	78
3	小児がん連携病院や地域の医療機関の医療従事者	2
	合計	515

小児がんに係る相談支援内容

※がん相談支援センターで最も力を注いでいる小児がんに係る相談支援の内容について下記に5つあげてください。国立がん研究センターのサイト「がん情報サービス」の相談支援センターの紹介欄に掲載する予定です。なお、該当が無い場合は、「なし」とご回答ください。

相談支援の対象者

例	がんの診療を行っている医療機関の紹介(70施設を対象に調査を行い、その資料をもとに医療機関の情報を提供しています。)	相談支援の対象者
		他施設の患者・家族
1	小児がん拠点病院・都道府県がん診療連携拠点病院の2つの機能を生かし、子どもから大人までライフステージに応じた相談活動を行っています。小児がんの患者さんは小児がん相談員、AYA世代でがんを発症した方は、認定がん専門相談員(社会福祉士・臨床心理士・看護師)が担当し、多職種(専門医・薬剤師・就労支援コーディネーター等)と連携しながらご相談をお受けしています。	自施設と他施設の患者・家族
2	小児がん経験者の相談窓口では、当院で治療を受けた方だけでなく、他院で治療を受けられた方、現在医療機関にかかっておられない患者さまからのご相談もお受けしています。以前受けた治療の影響や、晩期合併症、結婚・出産についての悩みなどを伺い、診療が必要な方には相談員が同席し、長期フォローアップ外来を受診していただきます。	自施設と他施設の患者・家族
3	治療をはじめて間もない頃から長期フォローアップの時期まで、成長に合わせて制度の紹介や情報提供をさせていただきます。長期フォローアップ外来では、必要時、主治医や看護師と連携しながら、社会・心理的なサポートを行っています。	自施設と他施設の患者・家族
4	セカンドオピニオン外来も相談員が担当しています。当日の外来にも相談員が同席しますので、その後も継続的にご相談いただくことができます。必要な場合には各科(小児科・小児外科・整形外科・放射線科・脳外科等)の医師から一度に話を聞いていただけるよう調整いたします。オンラインでのセカンドオピニオンも受け付けており、遠方の方からの相談にも応じる体制をとっています。	自施設と他施設の患者・家族
5	院内ではミニレクチャーを交えた、サロンを開催しています。小児がん患者、ご家族が情報を共有し、気持ちを分かち合うための集いの場となっており、院内の患者さんだけでなく、院外の患者さんにも参加していただけるようHPでも開催内容をお伝えしています。また、AYA世代の患者会とも協力し、交流会を開催しています。	自施設と他施設の患者・家族

## がん相談支援センターの問い合わせ窓口

記載の有無: 入力済 / 未入力あり 入力済

病院名: 京都府立医科大学附属病院  
 時期・期間: 令和6年9月1日現在

1	がん相談支援センターの名称	がん相談支援センター			
2	問い合わせ先電話番号	075-251-5605	(内線)	5605	
3	■ 対面相談の実施 (実施/未実施)	実施			
	予約の要否 (必要/不要)	不要			
	■ 電話相談の実施 (実施/未実施)	実施			
	電話番号	075-251-5605	(内線)	5605	
4	予約の要否 (必要/不要)	不要			
	■ FAX相談の実施 (実施/未実施)	未実施			
	FAX番号				
	■ 電子メール相談の実施 (実施/未実施)	実施			
	メールアドレス ※個人のメールアドレスは記載しないでください	himawari@koto.kpu-m.ac.jp			
	■ Web会議ツールを活用した遠隔相談の実施 (実施/未実施)	未実施			

## 小児がん患者およびその家族が語り合うための場の設定状況

記載の有無: 入力済 / 未入力あり

入力済

病院名: 京都府立医科大学附属病院

時期・期間: 令和6年9月1日現在

自施設と連携している、小児がんに関する患者団体の数

2

語り合うための場総実施回数(期間: 令和5年1月1日～12月31日):

2

1. 患者の交流会・勉強会・相談支援・講演会等で連携している小児がん患者団体と、小児がん患者およびその家族が語り合うための場について主なものを5つまで記載してください。

No.	連携している小児がん患者団体について			当該団体が主催する小児がん患者およびその家族が語り合うための場について								
	連携している団体の名称	団体の参加対象者	具体的な連携内容	上段: 語り合う場の名称	病院 職員 の 関与	活動状況		参加対象者			参加対象者向けの 院内の問い合わせ窓口 (窓口の名称・電話番号)	
				下段: 主な活動内容		定期 /不定 期	頻度 (回)	病名	院外からの 参加可否	患者のみ /家族のみ /患者・家族		
例	〇〇〇会	小児血液腫瘍の患者およびその 家族	・月1回患者交流会を開催して いる。 ・市民講演会に演者として参加 してもらっている。	〇〇〇会 小児がん患者の親の交流 会を開催している。	なし	定期	週	1	小児がん	参加可	患者・家族	名称 電話 相談支援センター XXX-XXX-XXXX直通
1	あやぶき	AYA世代小児がん経験者	・本年度は、ひだまりサロ ンForKidsに参加してもら い、交流してもらおう。	あやぶきの会 小児がんサバイバーの交 流の場。	あり	不定期	年	4	小児がん	参加可	患者のみ	名称 電話 がん相談支援センター 075-251-5605
2	腫瘍性疾患児とともに歩 む会 かがやく未来	小児がん患者の親の会	・本年度は、ひだまりサロ ンForKidsに参加してもら い、経験談のレクチャー や交流会をしてもらおう。	かがやく未来 小児がん患者の親の交流 の場を提供している。	あり	不定期	年	2	小児がん	参加可	家族のみ	名称 電話 がん相談支援センター 075-251-5605
3												名称 電話
4												名称 電話
5												名称 電話

2. 患者および家族向けの図書室の設置状況を記載してください。

※院内のがん相談支援センターなどの図書室について記載してください。院内図書室以外は3ページ目に記載してください。

1	患者および家族向けの図書室の設置	設置あり	※「設置あり」の場合に限り、以下を記載してください。				
2	図書室の名称	がん相談支援センター					
3	図書室の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	がん情報コーナー				
		アドレス	<a href="https://www.kpu-m.ac.jp/j/drcc/sodan/info.html">https://www.kpu-m.ac.jp/j/drcc/sodan/info.html</a>				
4	利用者の制限 ※「その他」を選択する場合は、その他欄に詳細を記載すること。	制限なし	その他				
5	医療系の資料 有無について	図 書		雑 誌		医療系のビデオ・DVD	医療系の冊子
		医学専門書	一般向け医療系図書	医学専門雑誌	一般向け医療系雑誌		
		あり	あり	なし	なし	あり	あり
6	利用可能な機器	インターネット接続可能なパソコン		プリンター		コピー機	
		設置なし		設置なし		設置なし	
7	問い合わせ先電話番号 ※電話番号は半角英数で「-」を用いて記載 ※内線は、設置されている場合のみ記載	代表	075-251-5111	(内線)	5605		
		直通1	075-251-5605	直通2	075-251-5283		
9	ピアサポーターによる対応（実施/未実施）	未実施					

3. 院内のがん相談支援センターなどの図書室以外の場所に図書等が設置されている場合を記載してください。

1	院内図書室以外の場所に図書等の設置	設置あり	※「設置あり」の場合に限り、以下を記載してください。				
2	図書等が設置されている場の名称	患者図書室「ほほえみ」					
3	図書室の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	病院のご案内				
		アドレス	<a href="https://www.h.kpu-m.ac.jp/doc/aboutus/affairs.html#t02">https://www.h.kpu-m.ac.jp/doc/aboutus/affairs.html#t02</a>				
4	利用者の制限 ※「その他」を選択する場合は、その他欄に詳細を記載すること。	その他	その他	入院中・通院中の方、入院中・通院中のご家族の方、病院職員			
5	医療系の資料 有無について	図 書		雑 誌		医療系のビデオ・DVD	医療系の冊子
		医学専門書	一般向け医療系図書	医学専門雑誌	一般向け医療系雑誌		
		なし	あり	なし	なし	なし	あり
6	利用可能な機器	インターネット接続可能なパソコン		プリンター		コピー機	
		設置あり		設置なし		設置なし	
7	問い合わせ先電話番号 ※電話番号は半角英数で「-」を用いて記載 ※内線は、設置されている場合のみ記載	代表	075-251-5111	(内線)	5233		
9	ピアサポーターによる対応（実施/未実施）	未実施					

## 長期滞在施設またはこれに準じる施設

記載の有無: 入力済 / 未入力あり

入力済

病院名: 京都府立医科大学附属病院

時期・期間: 令和6年9月1日現在

病院からの距離、施設内の設備(調理スペース、ランドリー、プレイルーム等)、人の配置等について記載すること。必要に応じて写真を貼付することも可。**1枚におさめること。**

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙12を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無  (あり/なし)

ファイル形式  (ワード/エクセル/パワーポイント/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

# 長期滞在宿泊施設

## ① 京都府立医科大学小児医療センター内 家族控室 5室

- ・全5室:室内にシャワー、ミニキッチン、備品(寝具、テレビ、電子レンジ、冷蔵庫、エアコン)完備、小児医療センター内のランドリー使用可
- ・利用額:無料(利用者は、各病棟看護師長へ申し込む)
- ・利用時に手指消毒、検温、健康状態の確認を実施、面会制限あり



## ② 京都ファミリーハウス 全9室

- ・病院からの距離は徒歩15分、自転車、市バス利用で10分以内
- ・全9室(1K):台所、バス、トイレ、備品(ベッド、寝具、台所用品、入浴用品、テレビ、電子レンジ、冷蔵庫、掃除機、洗濯機、自転車、エアコン、食器)完備
- ・利用額:対象者1泊につき1,500円
- ・感染状況により手指消毒、検温、健康状態の確認など

## ③ 京都府長期療養児支援事業

## ② 京都ファミリーハウス



## ③ 京都府長期療養児家庭支援事業 1施設

- ・「京都ガーデンパレス」
- ・病院からの距離は徒歩15分、自転車、市バス利用で10分以内
- ・助成額:対象者1泊につき2,000円
- ・利用期間:長期療養児1人の付添につき年間90日(89泊)以内
- ・感染状況により手指消毒、マスク着用など

## ④ 京都ハウス(家族宿泊施設) (建設予定)



- ・公益財団法人 ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンに対し京都への宿泊施設誘致を行い、整備が決定した(2026年10月開設予定)

## 臨床研究の問い合わせ窓口

記載の有無: 入力済 / 未入力あり 入力済

病院名: 京都府立医科大学附属病院

時期・期間: 令和6年9月1日現在

【臨床研究(治験を除く)】の問い合わせ窓口							
<b>■臨床試験(治験を除く)に参加していない、地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口の有無について</b>					相談支援センターが窓口となっている		
1	窓口の名称		がん相談支援センター				
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください		見出し	京都府立医科大学がん征圧センター がんのご相談			
			アドレス	<a href="https://www.kpu-m.ac.jp/j/drcc/sodan/index.html">https://www.kpu-m.ac.jp/j/drcc/sodan/index.html</a>			
	電話		代表	075-251-5111	(内線)	5283	5284
			直通	075-251-5283, 075-251-5284			
<b>■臨床試験(治験を除く)に参加していない、地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について</b>					担当している診療科が窓口となっている		
2	窓口の名称		小児科				
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください		見出し	京都府立医科大学 小児科学教室 小児がん治療			
			アドレス	<a href="https://kpum-ped.com/cancer/">https://kpum-ped.com/cancer/</a>			
	電話		代表	075-251-5111	(内線)	5571	
			直通	075-251-5571			

【臨床試験以外の小児がんに関連する臨床研究】の問い合わせ窓口						
■臨床試験以外の小児がんに関する臨床研究に参加していない、地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口の有無について					相談支援センターが窓口となっている	
1	窓口の名称		がん相談支援センター			
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	京都府立医科大学がん征圧センター がんのご相談			
		アドレス	<a href="https://www.kpu-m.ac.jp/j/drcc/sodan/index.html">https://www.kpu-m.ac.jp/j/drcc/sodan/index.html</a>			
	電話	代表	075-251-5111	(内線)	5283	5284
直通		075-251-5283, 075-251-5284				
■臨床試験以外の小児がんに関する臨床研究に参加していない、地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について					担当している診療科が窓口となっている	
2	窓口の名称		小児科			
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	京都府立医科大学 小児科学教室 小児がん治療			
		アドレス	<a href="https://kpum-ped.com/cancer/">https://kpum-ped.com/cancer/</a>			
	電話	代表	075-251-5111	(内線)	5571	
直通		075-251-5571				

【治験】の問い合わせ窓口						
■治験に参加していない、地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口について					治験専用の窓口がある	
1	窓口の名称		臨床治験センター			
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	臨床治験センターのご紹介			
		アドレス	<a href="https://www.h.kpu-m.ac.jp/doc/departments/central-sector/clinical-trial-center.html">https://www.h.kpu-m.ac.jp/doc/departments/central-sector/clinical-trial-center.html</a>			
	電話	代表	075-251-5111	(内線)	5871	
直通		075-251-5571				
■治験に参加していない、地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について					担当している診療科が窓口となっている	
2	窓口の名称		小児科			
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	京都府立医科大学 小児科学教室 小児がん治療			
		アドレス	<a href="https://kpum-ped.com/cancer/">https://kpum-ped.com/cancer/</a>			
	電話	代表	075-251-5111	(内線)	5571	
直通		075-251-5571				

## 医療の質の継続的な評価改善の取組について

記載の有無: 入力済 / 未入力あり 入力済

病院名: 京都府立医科大学附属病院

時期・期間: 令和6年9月1日現在

■ 自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、患者QOLについて把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じる体制について、地域に対して行っている情報提供を記載してください。

① 院内の見やすい場所に掲示している

はい (はい / いいえ)

② 院内誌、チラシ等で広報している

はい (はい / いいえ)

③ ホームページに掲載している

はい (はい / いいえ)

④ ホームページに掲載している場合、該当するページのアドレスを記載してください

<https://www.h.kpu-m.ac.jp/>

⑤ 地域の広報誌等で広報している

はい (はい / いいえ)

⑥ その他の方法で掲載している

はい (はい / いいえ)

⑦ その他の方法がある場合、内容を記載してください

地域連携カンファレンス、メディカルトーク

■ 自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、患者QOLについて把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じる体制について、必要に応じて図表などを活用し、具体的に記載すること。

PDCAを使って改善することを想定している課題(いくつでも可)

課題の内容	目標	目標達成の検証方法(データ源)
例) 患者満足度の向上	退院患者の80%が入院治療環境に満足する	3カ月おきに日を設定して患者アンケートを行う。
1 患者満足度の向上	退院患者の90%が入院治療環境に満足している。	年に1回、患者満足度調査を行っている。
2 緩和ケアの実践	小児がん領域におけるアドバンス・ケア・プランニング(ACP)の実践	小児がん患者におけるACPの実施率、小児ACPシートの使用状況とその効果・課題の評価、終末期の過ごし方の質的調査。近畿ブロックでの共有。
3 高校生の学習支援体制の確立	高校生の同時双方向遠隔授業の体制整備	進級・卒業率、授業の満足度の調査。近畿ブロックでの共有と公開講座。
4 移行期医療支援体制の確立	小児科から成人診療科への適切な段階的移行	成人期に達した小児がん患者の成人診療科移行率の調査。自立支援、就労支援の実施数、近畿ブロックでの共有。
5 生殖機能温存	がん・生殖医療センターの充実	日本がん・生殖医療学会認定ナビゲーターを中心とした小児がん患者の生殖機能温存医療対応件数、日本がん・生殖医療学会認定施設取得

上記の目標に向けた活動計画の予定(未定の場合には、未定と記入)

1	患者満足度調査の実施(毎年2月上旬)、御意見箱のご意見、患者相談内容を共有する患者サービス・サポート部会の開催(毎月1~2回)
2	小児領域におけるACPのために作成した小児ACPシートの適切な使用(時期、本人への聞き取りの工夫)による小児がん患者におけるACPの推進
3	高校生の同時双方向遠隔教育の推進(ガイドブックの利用)
4	成人診療科を含む多職種移行期医療カンファレンスの開催と長期フォローアップ外来と移行期医療センターによる支援の促進
5	日本がん・生殖医療学会認定施設として小児がん生殖機能温存医療対応実施の推進

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙14を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

あり (あり/なし)

ファイル形式

パワーポイント (ワード/エクセル/パワーポイント/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

## 京都市立医科大学におけるがん対策推進の体制

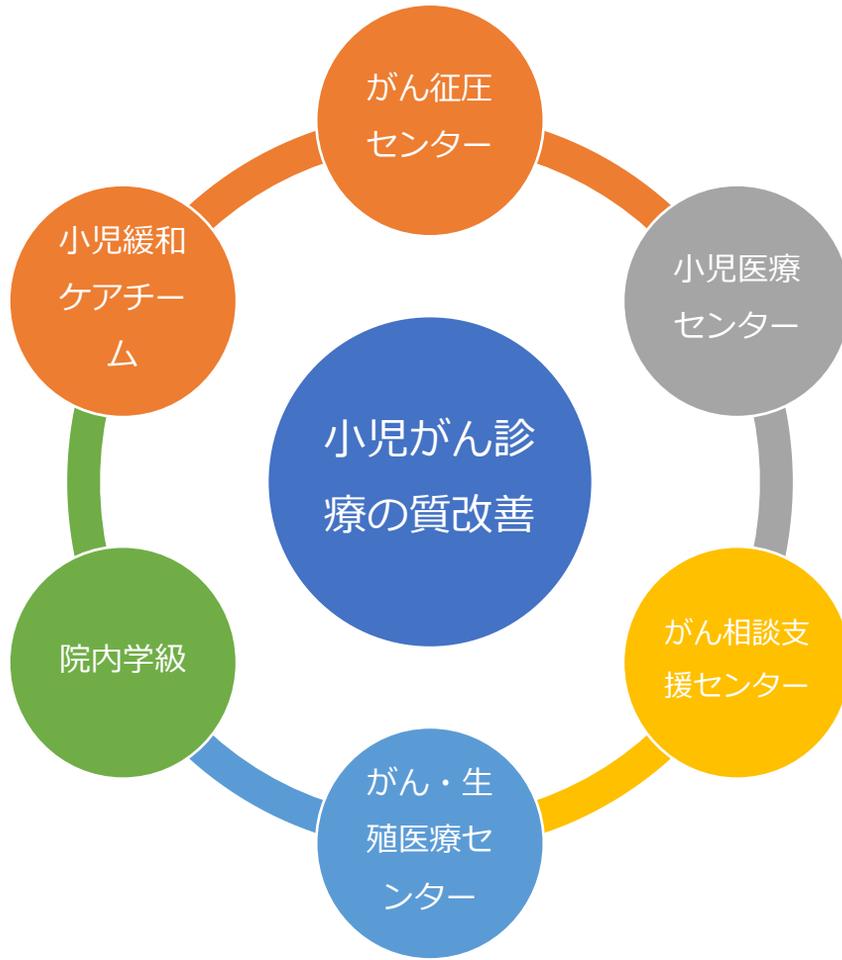
### 京都市立医科大学がん征圧センター (平成19年1月設置)

- センター長：学長
- センター員：基礎・社会医学系教授 若干名  
臨床医学系教授 若干名  
その他学長が指名する者 若干名
- 研究と診療が一体となった組織として
  - ・横断的ワーキンググループを設置し、病院を研究面から支援
  - ・がん征圧センターの研究成果等を診断・治療に活用

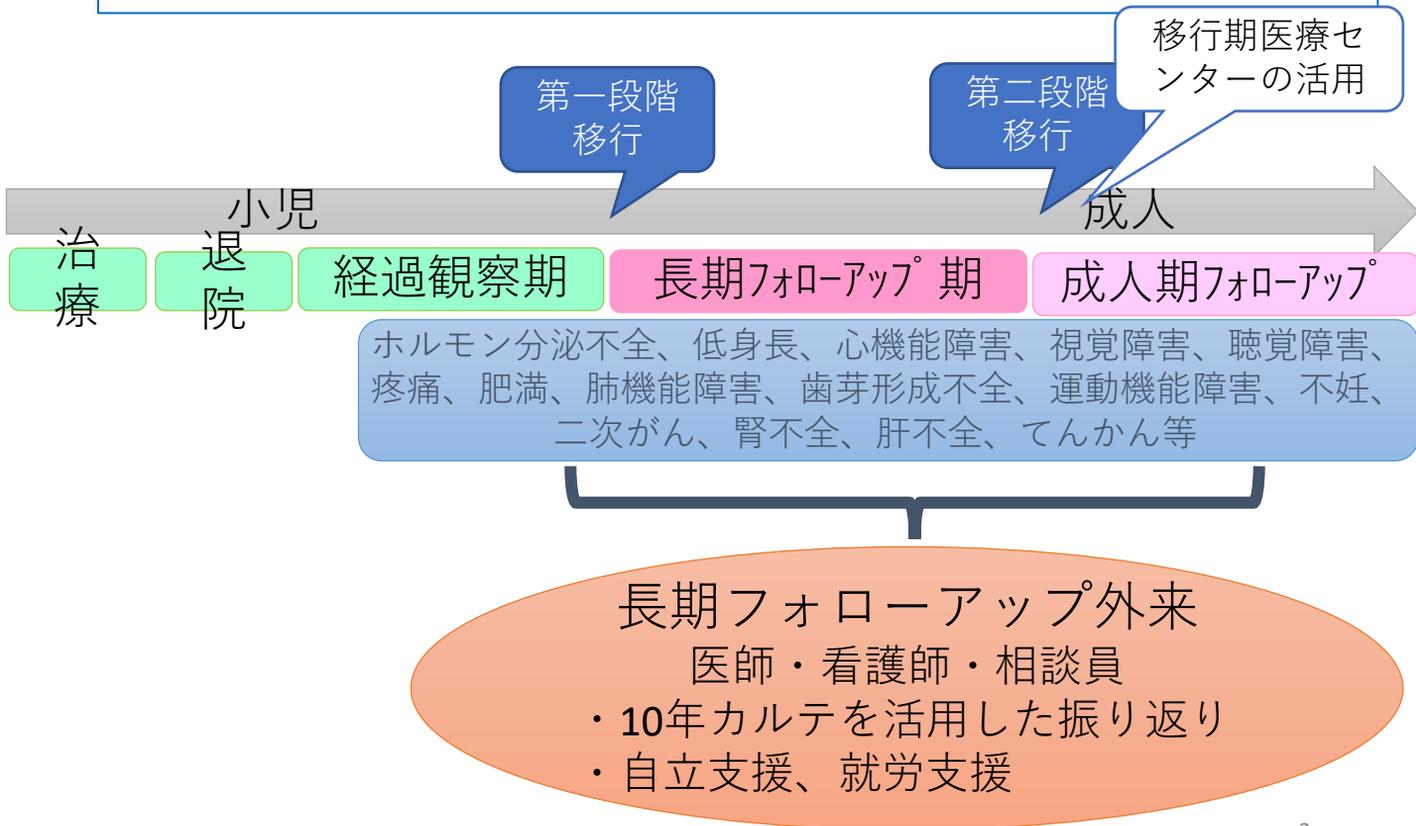
### がん対策加速化プロジェクトチーム (平成29年10月設置)

- リーダー 消化器外科 教授
- 副リーダー 皮膚科 教授
- ” 血液内科 教授
- チーム員 消化器内科 講師
- ” 泌尿器科 学内講師
- ” 精神科・心療内科 准教授
- ” 放射線科 講師
- ” 同上 助教
- ” 疼痛・緩和ケア科 准教授
- ” 地域医療連携室 副室長
- ” 中央手術部 副部長
- ” 看護部長
- ” 薬剤部長
- がん対策推進のためのPDCAサイクルを確保するための企画、実行、検証の実働組織
  - ▶ 化学療法
  - ▶ 広報
  - ▶ 地域連携
  - ▶ がん相談
  - ▶ がん登録
  - ▶ 人材育成
  - ▶ 緩和ケア
  - ▶ 放射線治療

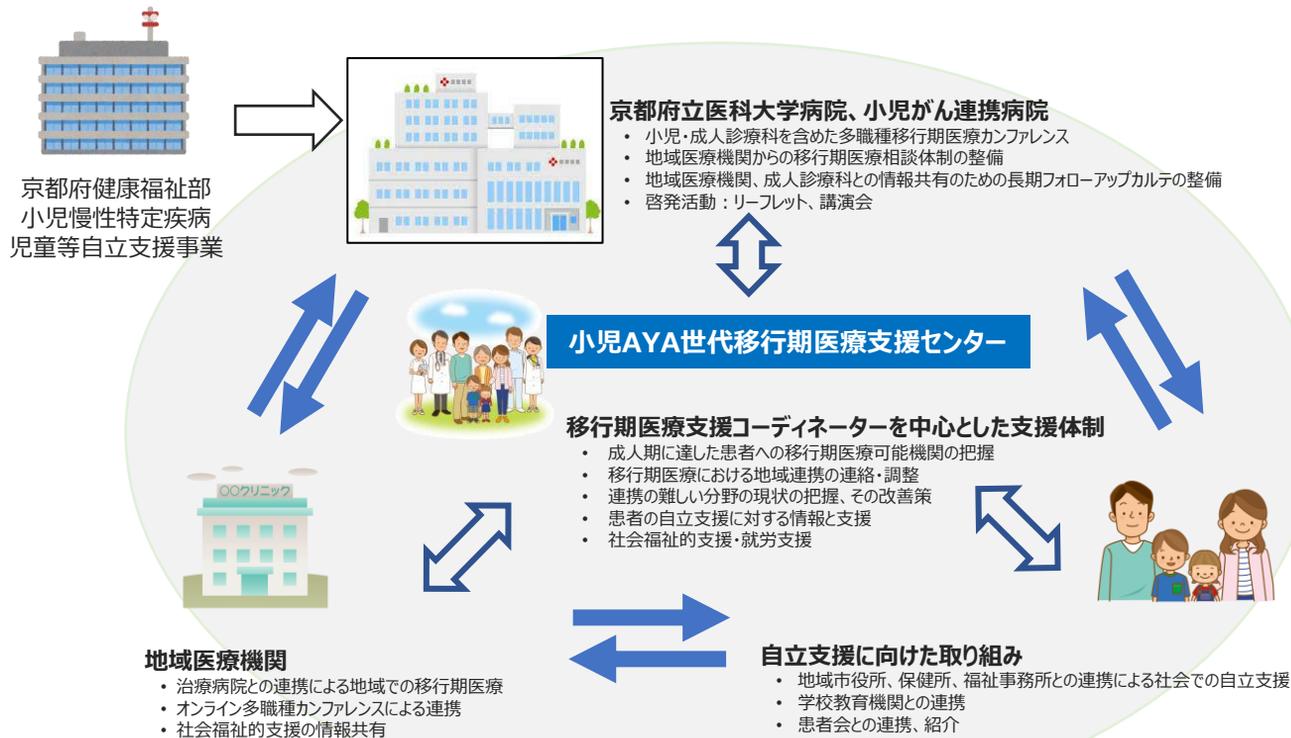
# 小児がん診療の質の改善体制



# 小児がんの長期フォローアップと移行期医療の流れ



# 京都府立医科大学移行期医療センターの設置



# 京都府立医科大学における PDCAサイクルの具体例 1

# 小児における緩和ケアの実践①

小児におけるアドバンス・ケア・プランニング（ACP）の実施

Act

小児における緩和ケアの実践計画

Plan

病气療養中、終末期の小児の緩和ケアにおける課題

Check

小児における緩和ケアの推進

Do

小児がん患者の緩和ケアの推進の中で、病气療養中あるいは終末期の小児の緩和ケアにおける課題として、**本人自身と代理意思決定者の両方の意見を加味したACP**の実施を計画。

## 小児における緩和ケアの実践②

小児ACPシートの作成  
と活用

Act

小児におけるアドバ  
ンス・ケア・プランニング  
(ACP) の計画

Plan

小児におけるACPのため  
の情報収集と医療者での  
情報共有における課題

Check

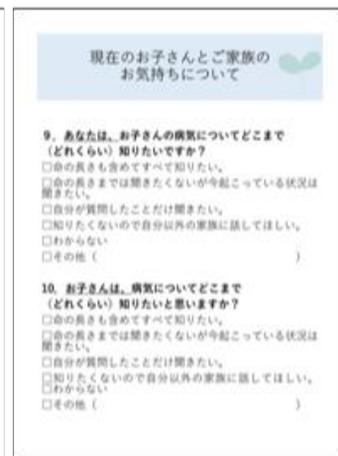
小児におけるACPの  
推進

Do

小児におけるアドバンス・ケア・プランニング（ACP）においては、本人の意思決定のために、本人からの情報、代理意思決定者からの情報を収集と医療者における情報共有が必要であり、**小児ACPシートの作成とその活用**を行った。

# 小児におけるACPシートの作成と運用

- 小児のアドバンス・ケア・プランニング（ACP）は、本人の年齢や理解に応じた説明や聞き取りを行い、**代理意思決定者を含んだ話し合いを要する**点で成人とは意思決定プロセスが異なる。
- 小児のACPをよりよく実践するツールとして、当院では2022年に小児ACPシートを作成した。
- 面談の際に、医療者側がACPシートを参照しながら質問し、回答を電子カルテに記載する形式とした。
- 代理意思決定者が直接記載できる様式（**パンフレット**）を導入した。



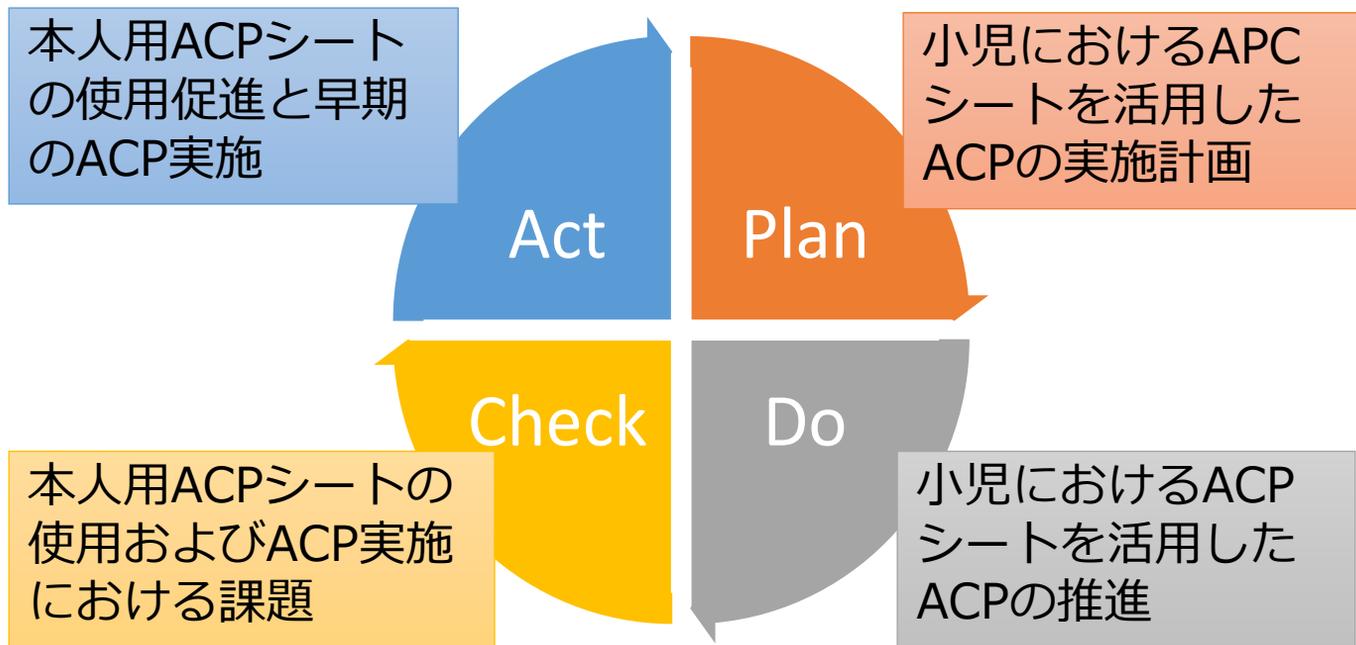
# 小児ACPシートの仕様

- 小児ACPシートの対象は、胎児期から小児期にかけての生命予後が脅かされる可能性のある症例とし、疾患は問わないこととした。

シートの仕様	用途
① 本人用	
② 代理意思決定者用	
③ 代理意思決定者用 (こどもの立場)	代諾者がこどもの視点に立って回答
④ 統合用	聞き取りや話し合い内容、方針のまとめ

- 電子カルテ内で記載し、内容をすべての医療者が確認できる。
- 意向の変化があれば内容を更新し、更新の履歴も見るができる。

## 小児における緩和ケアの実践③



小児ACPシートを用いた小児ACPを評価、医療者間でのばらつきや漏れなく必要な情報を収集でき、医療者がACPの内容を把握情報を共有できたが、本人用シートの使用機会少なく、ACP実施のタイミングが病勢の進行や状態の悪化時であったことから、その使用法の改善を図った。

# 京都府立医科大学における PDCAサイクルの具体例 2

## 病気療養中の高校生の療養環境の課題

- ▶ 病気療養中の高校生、特に小児がん患者の多くは長期療養を要する場合、教育の機会を失い、留年又は退学を余儀なくされてきた。

健康な  
自分

高校生と  
しての自  
分

容姿

妊孕性

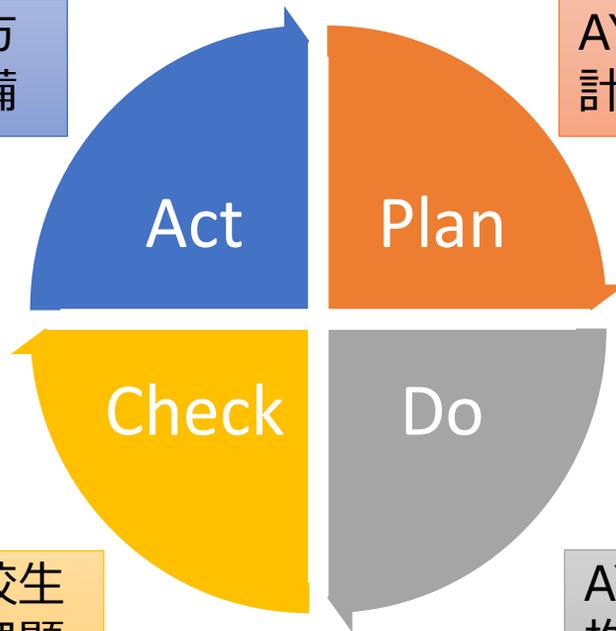
小児がんに罹患した高校生が、様々なものを喪失する中で、「高校生としての自分」をあきらめずに、治療を受けられる環境の整備が求められている。



# 病気療養中の高校生の療養環境についての PDCAサイクル①

高校生の同時双方向遠隔教育の整備

AYA世代患者診療の計画



病気療養中の高校生の進級・卒業の課題

AYA世代患者診療の推進

AYA世代患者診療の推進から見てきた病気療養中の高校生の進級・卒業の課題を、同時双方向遠隔教育の整備により、改善することを計画した。

# ICTを用いた 同時双方向の遠隔授業の整備



病院・自宅に、保護者、医療者を配置



高校の授業を

同時双方向に配信



出席、単位認定

京都府立医科大学附属病院では、病気療養中の高校生に対して、ICTを用いた同時双方向の遠隔授業を推進しており、2018年以降、8名の高校生に導入、いずれも進級、卒業、あるいは卒業の見込みである。当院における同時双方向の遠隔授業の実施は、近畿ブロック協議会において報告され、各施設で実施に移されている。

# ICTを用いた同時双方向の遠隔授業の課題



同時双方向に配信

通信環境の整備

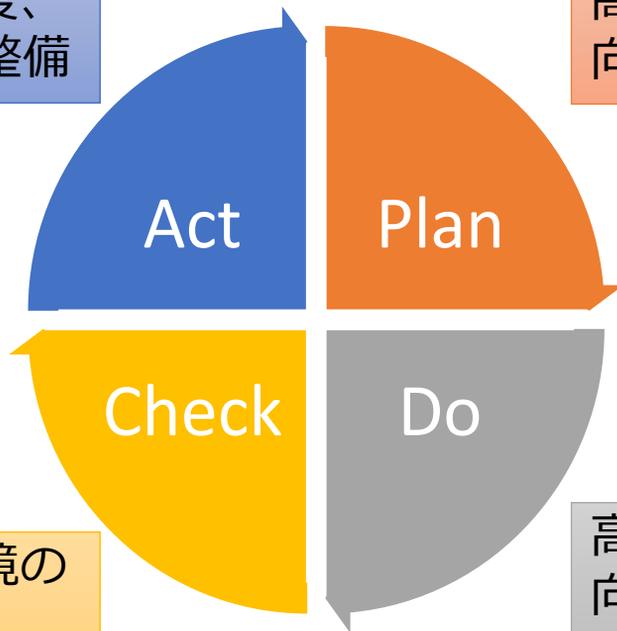
- ・通信が不安定になることがあり、授業の視聴に影響をきたすことがある。
- ・WiFiルーター、通信費などの費用面の問題。

同時双方向の遠隔授業の課題としては、通信環境の整備が挙げられる。現状では通信が不安定になり、授業の視聴に影響をきたすことがあり、また、WiFiルーター、通信費などの費用面の問題もある。

# 病気療養中の高校生の療養環境についての PDCAサイクル②

遠隔教育助成制度、  
院内WiFi環境の整備

高校生の同時双方向  
遠隔教育の計画



通信費、通信環境の  
課題

高校生の同時双方向  
遠隔教育の実施

ICTを用いた高校生の同時双方向遠隔授業の実施から見てきた通信環境の課題を解決につなげていくPDCAサイクルを実践している。

# ICTを用いた同時双方向の遠隔授業の普及と促進の課題

## 同時双方向遠隔授業の実施

- ・長期入院療養中の高校生の学習継続のための遠隔教育の意義を高校生、高校教員、医療者が十分理解していない。
- ・遠隔授業実施における高校生、高校教員、医療者の連携と通信整備をどう実施するのかわからない。

同時双方向の遠隔授業の普及と促進の課題としては、長期入院療養中の高校生の学習継続のための遠隔教育の意義を高校生、高校教員、医療者を伝え、実際に「医療連携コーディネーター」を中心とした連携や配信機材と配信方法などの整備方法などをわかりやすく説明されたガイドラインが必要。



## 長期入院療養中の 高校生の学習継続に関する ガイドブック



- 関係機関の連携
- 入院療養中の学習継続
- 入院療養中の学習支援
- 同時双方向型授業配信
- 配信機材と配信方法
- 体験談～配信授業が育んだもの～
- 高校生学習会
- 参考資料

京都市立桃陽総合支援学校

京都市教育委員会

文部科学省委託「高等学校段階の病後療養中等の生徒に対する ICT を活用した遠隔教育の調査研究事業」

# 病気療養中の高校生の療養環境についての PDCAサイクル③

高校生の同時双方向  
遠隔教育のガイド  
ブック作成

高校生の同時双方向  
遠隔教育の計画



同時双方向教育の実  
施における普及と推  
進

高校生の同時双方向  
遠隔教育の実施

同時双方向遠隔授業の実施から見てきた「医療連携コーディネーター」を中心とした連携と通信整備の実際など普及と推進への課題の解決につなげるPDCAサイクルを実践している。

# 別紙14に記載できなかった課題

PDCAを使って改善することを想定している課題(いくつでも可)

課題の内容		目標	目標達成の検証方法(データ源)
1	再発・難治例、骨軟部肉腫症例の把握と治療の均てん化	セカンドオピニオン体制の向上	セカンドオピニオン実施件数、紹介元・居住地、患者ニーズの把握と分析。近畿ブロックでの共有。
2	診療体制の向上	拠点病院と連携病院での連携により最適な診療を提供する	診療体制、治療内容、治療成績の分析。近畿ブロックでの共有。
3	がん相談支援の向上	患者の求める情報を掲示し、適切な医療や支援の提供につなげる	退院に向けた相談支援の退院後の実際充足度の把握。拠点・連携病院の相談支援員によるカンファレンスにおける検討。近畿ブロックでの共有。
4	リハビリ支援の向上	退院後リハビリ支援に体制の向上	リハビリテーション施設リスト作成。リハビリテーション支援センター、リハビリ支援施設とのカンファレンス、公開講座での検討。近畿ブロックでの共有。
5	在宅支援	在宅医療を含めた充実した週末期医療を受けられる	在宅での看取り件数、割合。病院、在宅訪問診療所のデスクケースカンファレンスにおける振り返り。
6	患者満足度の向上	否定的な意見の減少	院内19カ所にご意見箱を設置し、毎週回収。頂いたご意見は院内で共有し、院内の意思決定機関と同じ構成員で構成する業務改善委員会が改善策を検討・決定

上記の目標に向けた活動計画の予定(未定の場合には、未定と記入)

1	構築したオンラインセカンドオピニオンシステムを利用したセカンドオピニオンの推進
2	拠点病院、連携病院とのWEBカンファレンスによる情報共有の促進
3	拠点・連携病院の相談支援員による定期カンファレンスの開催及び共通リーフレットを用いた情報共有の推進
4	現在実施中の身体障害に対する退院前からの地域リハビリ支援施設との連携に加え、高次機能障害患者に対するリハビリテーション支援センターのコーディネーター、地域のコーディネーター、神経内科医、学校、地域リハビリ施設によるカンファレンスによる退院後リハビリ支援の推進
5	入院中からの在宅医療施設とのカンファレンス、情報共有、患者家族との面談による在宅へのスムーズな移行の促進
6	御意見箱のご意見、患者相談内容を共有するとともに患者サービス・サポート部会議論を踏まえ病院としての方針決定をする業務改善委員会の開催(年7回)

## 医療安全体制

記載の有無：入力済／未入力あり

入力済

病院名： 京都府立医科大学附属病院

時期・期間： 令和6年9月1日現在

●医療に係る安全管理を行う部門の名称、メンバーについて記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。

注1) 研修医は除いてください。

注2) 常勤とは、当該医療機関が定める1週間の就業時間のすべてを勤務している者をいいます。ただし、当該医療機関が定める就業時間が32時間に満たない場合は常勤とみなしません。(「医療法第21条の規定に基づく人員の算出に当たっての取扱い等について」(平成10年6月26日付け健政発第777号・医薬発第574号、厚生省健康政策局長・医薬安全局長連名通知)の別添「常勤医師等の取扱いについて」を参照)

注3) 「専従」および「専任」とは、当該医療機関における当該診療従事者が「専従」については「8割以上」、「専任」については「5割以上」、当該業務に従事している者をいいます。  
「その他」については、「5割未満」の場合に選択してください。

注4) 「医療安全管理者の業務指針および養成のための研修プログラム作成指針」(平成19年3月30日付け医政発0330019号厚生労働省医政局長通知及び薬食発第0330009号厚生労働省医薬食品局長通知)に基づく研修を想定しています。

医療に係る安全管理を行う部門の名称		医療安全推進部					
医療に係る安全管理を行う部門のメンバー		医療安全に関する研修の受講状況(注4)					
		職種(注1)	常勤/非常勤(注2)	専従/専任/ その他(注3)	受講した研修名	研修主催者名	修了日
1	部門長	医師	常勤	専従(8割以上)	医療安全管理者養成研修会	医療の質・安全学会	2017年11月
2		医師	常勤	その他			年 月
3		医師	常勤	その他	医療安全管理者養成研修会	医療の質・安全学会	2019年8月
4		薬剤師	常勤	その他			年 月
5		看護師	常勤	その他	医療安全管理者養成研修	日本看護協会	2021年11月
6		看護師	常勤	専従(8割以上)	医療安全管理者養成講習会	京都府看護協会	2019年6月
7		看護師	常勤	専従(8割以上)	医療安全管理者養成研修	日本看護協会	2021年11月
8		薬剤師	常勤	専従(8割以上)			年 月
9		薬剤師	常勤	その他			年 月
10		その他	常勤	その他			年 月

11	その他	常勤	その他			年月
12	その他	常勤	その他			年月
13	その他	常勤	その他			年月
14	その他	常勤	専任(5割以上8割未満)			年月
15	その他	常勤	その他			年月
16	その他	常勤	その他			年月
17						年月
18						年月
19						年月
20						年月

●医療安全のための患者窓口

窓口の名称	患者相談窓口					
電話	直通	075-251-5255				
	代表	075-251-5111	(内線)	5255		

様式3(病院機能)の該当指定要件のAのうち満たしていない項目について

記載の有無: 未充足あり/不要

入力済

病院名: 京都府立医科大学附属病院

時期・期間: 令和6年9月1日時点

※様式3(病院機能)の該当指定要件のAのうち満たしていない項目について、満たしていない項目とその理由と今後の見通し等について具体的に記載してください。

※通し番号については、様式3(病院機能)シートのL列の番号を記入してください。

※令和6年9月2日以降に、要件の充足状況に変動があった場合には、別途、文書で厚生労働省健康・生活衛生局がん・疾病対策課へ届け出てください。

※右上について、最初は「不要」と表示されます。様式3(病院機能)を入力後に、上部にある「様式3(病院機能)シート」の「ボタン」をクリックしてください。未充足要件が抽出されます。

通し番号 ※自動反映	令和6年9月1日時点で満たしていない要件 ※自動反映	現状の説明	充足見込み時期
例 68	小児がんの放射線療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。	〇月〇日付けで該当医師が退職し、9月1日時点で配置できていない状況である。	令和〇年〇月〇日に、該当医師を新規採用予定である。
例 111	放射線療法に関する機器を設置すること。ただし、当該機器は、リニアックなど、体外照射を行うための機器であること。	9月1日時点で、リニアックを導入していない。	令和〇年〇月〇日に、リニアックを導入し、放射線療法を開始予定である。
1 102	小児科領域に関する専門的な知識及び技能を有する社会福祉士もしくは精神保健福祉士の人数	3月31日付けで該当職員が退職し、9月1日時点で配置できていない状況である。	採用募集中である。なお配置はできていないが患者・家族の相談については患者サポートセンター所属の社会福祉士2名精神保健福祉士2名が必要時対応している。
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			